

名古屋芸術大学・大学院

後援会報

第68号 2020年3月31日発行



NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS

CONTENTS

1	目次 後援会創立50周年記念行事の 延期とご協力をお願い	33	親の想い
2	卒業生に贈る言葉	34	子の想い
3	名古屋芸術大学近況報告	35	私が就職内定をもらうまで
25	学務部報告 大学へのお問合せ先一覧	37	音楽学部 第47回卒業演奏会報告 大学院音楽研究科 第22回修了演奏会報告 美術学部・デザイン学部 第47回卒業制作展報告
26	芸大祭報告	38	大学院美術研究科 第24回修了制作展報告 大学院デザイン研究科 修了制作展報告
27	在学生及び卒業生の 展覧会・各種コンクール等受賞結果	39	2019年度後援会研修旅行報告
28	国際交流事業について	40	名古屋芸術大学・大学院後援会会則
29	2019年度ブライトン大学賞	41	大学運営組織図(2020年度)
30	第30回生涯学習大学公開講座報告	42	せせらぎ合唱団・壁の華 会員募集 編集後記
31	後援会補助公開講座実施報告		

後援会創立50周年記念行事の延期とご協力をお願い

日頃は後援会活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、名古屋芸術大学後援会は1970年(昭和45年)、大学開学と同時に発足した「父母の会」に始まり、おかげさまで今年で創立から50年目を迎えました。

後援会ではこれを記念して創立50周年記念行事(記念式典・祝賀会)の開催を企画し、鋭意準備を進めてまいりました。

しかしながら新型コロナウイルスによる国内外の急激な感染拡大により、大学構内立ち入り禁止や諸行事のあいつく中止・延期の措置を受け、後援会行事もまた開催日の延期や見直しが避けられない事態となりました。

現時点では、定期総会を2020年5月31日(日)に、50周年記念行事は芸大祭期間中の10月31日(土)に延期する方向で調整を進めております。とり急ぎご報告申し上げます。

後援会の目的は、名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学の正常な運営に寄与し、学生の福利厚生並びに大学諸活動(教育研究、公開講座、芸大祭、学生自治会、クラブ活動、国際交流、卒業式、就職活動など)をバックアップすることにあります。

後援会では、機関誌「後援会報」(年2回)の発行、研修会の開催、サークル活動などを通じて、保護者の皆さまと教職員間の相互理解と親睦をはかるとともに、ご家庭と大学を結ぶ「かけ橋」として各種事業に積極的に取り組んでいます。

保護者会員の皆さま方におかれましては、今後とも後援会活動へのなご一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症で現在入院調病中の皆さまの1日も早い快癒・退院を心からお祈りするとともに、お亡くなりになられた方々には謹んでお悔やみを申し上げます。

【お問い合わせ先】

電話：0568-24-0315(内線587)

メールアドレス：kouenkai@nua.ac.jp

副会長(総務委員長) 川野 佳代



NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS

卒業生に贈る言葉



後援会長
菊井 政右衛門

2019年度名古屋芸術大学学位記・修了証書授与式が
挙行されるこの良き日にあたり、後援会を代表してご挨拶
を申し上げます。

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。大学院修
了者の皆様、修了おめでとうございます。皆様に心よりお
祝いを申し上げます。

皆様はこの名古屋芸術大学で芸術（美術・デザイン・
音楽）と教育（人間発達）それぞれの分野で研鑽に励み、
確固たる人間的成長を勝ち取られました。

私はこれら皆様の努力とその成果に敬意を表するととも
に、前途洋々たる未来にエールを送ります。

そして今日まで全力でご指導ご支援くださいました竹本
義明学長はじめ恩師の先生方、全ての教職員の皆様、保

護者の皆様方に、心から御礼を申し上げます。

学窓を巣立ち、新しい世界に飛び込み、新しい時代を
生きて行く皆様には、希望だけでなく、沢山の不安もおあ
りのことと思います。

しかし皆様は試練を逆にチャンスと捉え、名古屋芸術大
学で学び培った〈ゲイジユツのちから〉を武器に、果敢に
挑戦してください。

アーティスト、学術・研究、教育、技術、行政、産業界など、
社会のあらゆる分野に皆様の活躍の場があります。

これからの長い人生、恩師・友人たちと共に過ごした名
古屋芸術大学での青春の4年間（院生は6年間）の思い出
と、名古屋芸術大学卒業生の誇りを胸に、しっかりと前を
見据えて進んでください。

いかなる困難があろうとも、志を高く持ち、決意を固め、
全力を尽くすならば、必ず目標は達成できます。

名古屋芸術大学後援会はこれからもずっと、頑張る皆様
を応援します。

最後に、皆様の素晴らしい人生の門出に乾杯し、ご健
闘を心よりお祈り申し上げ、後援会からの饒（はなむけ）
の言葉と致します。

未来は君たちのものだ！



学長
竹本 義明

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。
今年は、本学が2017年度から始めた大学改革が完成年
度を迎える年になります。卒業される皆さんは、社会が求
める人材として立派に成長し、それぞれの道を歩まれるこ
とでしょう。

芸術、教育系大学が現在の情報化時代において存在感
を示すには、学生や卒業生が特定分野の専門知識に加え、
異なる分野との結びつきや関係において幅広い知識を身に
つけ、考え方の相違やアプローチが理解出来る総合力を身
につけることが必要となっています。

そして、現在ほど教育のあり方が大きな社会問題となっ
ている時代はなく、そのような状況に対し国が2040年に
向けた高等教育のグランドデザインを発表しています。

その前提となるのは、2040年頃の社会変化として以下
の5項目をあげています。(1)SDGs「全ての人々が平和と豊
かさを享受できる社会、持続可能な開発のための17の目
標と169のターゲット」(2)Society5.0「第4次産業革命(狩
猟、農耕、工業、情報に次ぐ新たな社会)」(3)人生100年
時代「生涯学び活躍できる社会」(4)グローバル化「社会
や文化を踏まえて多様性を受け入れる」(5)地方創生「知識
集約型経済を生かした地方拠点の創出と、個人の価値観
を尊重する生活環境を提供できる社会」です。

大学は、今まで以上に学修者本位の教育への転換を迫
られていますが、本学では教育の質保証を重要な施策とし
て取り組み、全学的な教育マネジメントを確立し、学修成
果の可視化と情報公表の促進を図り、社会に貢献してまい
ります。

本年も皆様のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申
上げます。

名古屋芸術大学近況報告

音楽学部 / 芸術学部芸術学科音楽領域

声楽コース

今年度は合唱に関して大きなトピックがいくつかありました。

先ず最も大きな出来事は、愛知県で初めて待望のプロ合唱団が本学を基軸に結成されたことです。名称は「名古屋芸術大学ハルモニア合唱団」で客員教授の馬場浩子先生を指導者として結成されました。メンバーは本学の卒業生を主体に約30名の団員です。その第1回目の演奏会が2020年1月31日に愛知県芸術劇場コンサートホールにて盛大に行われました。曲はモーツァルト作曲の「戴冠ミサ」(高谷光信氏指揮)でした。今までの本学の合唱では聞いたことのない見事な合唱で多くの観客を魅了しました。これから愛知県を中心にコンサートを行っていくことと思います。卒業生の新たな活躍の場が生まれ本学で声楽を学ぶ人にとっては憧れとなる合唱団となるでしょう。これを企画した本学上層部には賛辞を送りたいと思います。

次に2019年10月6日に行われました名フィルふれあいコンサート(於しらかわホール)で初めて名フィルと共に声楽コースの学生が合唱を歌いました。曲は「マイスタージンガーから序曲とマスカーニのアヴェマリア、ベートーベンの第九の抜粋」の3曲で(鈴木忠明氏指揮)、声楽コース学生と卒業生約40名が合同で力強く美しい合唱を聞かせ聴衆に感動を与えました。

続きまして12月19日名古屋芸術大学フィルハーモニー定期公演「第九」(高谷光信氏指揮)を行いました。今回初めて1年生で合唱授業を履修している学生約40名を参加させました。彼らはまったく第九は未経験でまた大きなホールで歌うこと自体初めてという学生たちでした。約100名の在籍生、卒業生第九経験者と一緒に愛知県芸術劇場コンサートホールで第九を歌い、一様に第九合唱の素晴らしさに感動していました。

最後に声楽コース主体公演ですが、12月8日に定例の「歌曲の夕べ」を熱田文化小劇場で発表しました。日本歌曲、ドイツリートを歌うコンサートでした。いつものように熱心な観客がかけつけ大きな拍手で出演者を喜ばせてくれました。来年は場所が学内での発表に移りますが変わらぬ良いコンサートになるように努めます。

そしてオペラ公演ですが、3月14、15日と予定していましたオペラ「フィガロの結婚」公演は、突如起こった新型コロナウイルスの影響でやむなく中止となりました。こんなことは今までの長い歴史の中で初めてのことで大変衝撃的でした。名古屋市西文化小劇場との第4回連携公演で初日は学生中心キャスト、二日目は卒業生、合唱は西文化小劇場の合唱団で上演を予定し、学生と卒業生、市民との交流が大変順調で全員が楽しく生き生きと練習をやっていました。4年生にとっては卒業オペラでもあっただけにこの中止は本当に残念でした。

西文化小劇場との第5回連携公演は2020年11月14、15日を予定しています。

また本学50周年企画オペラ「トゥーランドット」も2021年3月14日にアートピアホールにて上演を予定しています。併わせてご期待ください。

声楽コース

鍵盤楽器コース(ピアノ)

こんにちは、ピアノコースの菅原です。

今年度ピアノコースの一番の話題は、特別客員教授の横山幸雄先生、上原彩子先生のピアノ演奏解釈の授業と個人レッスンでしょう。

ご承知のように、お二人の先生は世界的に有名なピアニストでいらっしゃいます。

ピアノ演奏解釈の授業は、ピアノコース三年生を対象にした授業ですが、横山先生の授業は、外部の方にも公開し大変な好評をいただきました。

お二人で前後期合せて18回の授業をやっていただきましたが、バッハからモーツァルト、ベートーヴェン、ショパン、リスト、ラフマニノフと幅広く教えていただきました。

どの曲も、深い造詣と経験に裏付けされたその解釈に、学生の演奏がみるみる変わって行くのがわかりました。そしてお二人とも、その場ですぐに弾いて下さることに、深い感動を覚えました。毎回、演奏会のようなものでした。

来年度も継続して、この授業をさせていただきます。詳しくはホームページをご覧ください。どうぞお申し込み下さいませ。お持ちしています。

鍵盤楽器コース ピアノ 菅原美枝子

鍵盤楽器コース(電子オルガン)

時世の懸念事項です。話題に上らない日がない「新型コロナウイルス」につきましても、皆様ご自身、もしくは周りに大事がございませぬことを、先ずはお祈り致します。ご健勝であられますように。

今年度の鍵盤楽器コース、電子オルガンにとりましての1年ですが、最後に上記の状況でつまづいた観もございませぬ、それを除けばお陰様で概ね、いえ、大変好調と申して良いものでした。

昨年の11月に伏見のしらかわホールで催された定期演奏会におきましては、3年生と新1年生の学生がプログラムの最初に演奏を披露。少なからず驚嘆…主観的かつ身びいきな話で恐縮ながら、ある種の称賛が多分に含まれてたように見受けられました…をいらして頂けた方々に与え得たと、出演学生を大いに誇りに思っております。同年12月のコース定期演奏会は、オーディション通過の学生のみならず、当日最後の演目として、ラヴェルの名曲『ボレロ』を全員参加のパフォーマンスで披露し、こちらもお客様方にお楽しみ頂けました。アレンジは私が致しましたが、音楽を伝えたのは学生達で、ステージで各々が輝いてくれたことを大変喜ばしく思っております。

学生達に思い違い(自分達が音楽を通して輝くことは、さほど困難ではない、というような…)をさせるわけにはまいりませんが、芸術を学ぶ者としての自覚と最低限の自信を持ってもらいたいと常々思っております。その上で、今年度は両・定期演奏会もキッカケとして、その面につきましては学生達に手応えのある成長を見た思いです。

今年、学部から電子オルガンコースとして送り出す学生は唯一人です。1人ですが、実技の実力は十分に評価されるレベルで「首席」と称して恥じるものでは全くありません。加えて当該学生は、学内での成績(GDP)は全体の2位。演奏学科(この年が音楽学部としての最後の卒業生です…)では1位。外部に於いても東海ジャズビッグバンドコンテストにて「最優秀ソリスト賞」受賞も評価され、栄えある「理事長賞」を受かることが内定しています。ですので、卒業演奏会の中止と卒業式の規模縮小を少なからず残念にも思っております。ですが勿論、これはやむを得ぬ事情によるものであることも理解しております。

後援会の皆様のお陰をもちまして、私の担当するコースの学生達はのびのびと、十分に実力を発揮し、刺激し合いながらも仲良く、キャンパスライフを過ごしたようです。私にも嬉しい話ですが、まずは幾重にも皆様様に御礼申し上げます。誠に有難うございます。そして今後ともどうか、よろしくお見守り頂けますよう、よろしくお願ひいたします。

鍵盤楽器コース 電子オルガン担当 教授 鷹野雅史

弦管打コース

まずはオーケストラの演奏会報告からです。2019年10月20日(日)に 本学東キャンパス3号館音楽講堂において「名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団第2回定期演奏会音楽の森」が行われました。この演奏会はアートマネージメントコースとのコラボレーション企画で、近隣の子供達との共演がメインの演奏会です。当日は10数人の子供達と楽器や合唱での共演を行い、訪れた観客や保護者の皆様から盛大な拍手を頂きました。次に2019年12月19日(木)愛知県芸術劇場コンサートホールにおいて「名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団第3回定期演奏会《第九》」が行われました。昨年からの恒例行事として今年度で2回目となりましたが、昨年を上回る観客の皆様にお越し頂き、大盛況の演奏会となりました。そして今年度の最後を締めくくる2020年1月31日(金)愛知県芸術劇場コンサートホールにおいて「名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団第4回定期演奏会」が行われました。今回は同じく立ち上がったハルモニア合唱団との共演がプログラムの前半にあり、非常に内容の濃い演奏会となりました。

次はウインドオーケストラの演奏会報告です。2019年10月24日(木)三井住友海上しらかわホールにおいて「名古屋芸術大学ウインドオーケストラ第38回定期演奏会」が行われました。今年のプログラムは非常に難易度の高い曲揃いで、演奏を行う学生達も気の抜けない本番となりましたが、集中力と技術を駆使して完成度の高い演奏会となりました。そして年が明けて2020年2月22日

(土)名古屋芸術大学東キャンパス音楽堂において「名古屋芸術大学ウインドオーケストラ早春コンサート」が行われました。今回は新型コロナウイルスの影響で演奏会自体の開催が危ぶまれましたが、無事行うことが出来ました。来て頂いた観客の皆様には万全の予防対策をして頂き感謝申し上げます。

そして弦管打コースと鍵盤コースとの共同開催の「室内楽の夕べ 2019」が2019年12月10日(火)電気文化会館ザ・コンサートホールにおいて行われました。弦管打コースは4組、鍵盤コースは7組のそれぞれオーディションに合格した学生達が出演しました。今回も多くの観客の皆様に来て頂き誠にありがとうございます。

いよいよ新年度があと1ヶ月程で始まりますが、来年度も魅力ある演奏会を企画しますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

サウンドメディア/サウンドメディア・コンポジションコース

本コースは、音楽制作・録音・音響を学びながら、新しい時代のテクノロジーと芸術の関わりについて考え、作品制作に取り組んでいます。夏休み以降、通常の授業に加え、以下の活動に取り組みました。

11月20日(水)ギタリスト 山田 岳氏を招き、公開講座「ギターのアート ～表現の可能性をめぐって～」を開催しました。古今のエポックメイキングなギター作品を、演奏を交えながらご紹介いただき、ギターのソノリティ、特殊奏法、表現の可能性について講義いただきました。

1月9日(木)レコーディング・エンジニアプロデューサーの深田晃氏を招き、公開講座「マイクロホンワークショップ」を開催しました。録音・音響を行う上で、音の入口であるマイクロホンについて、指向性、周波数特性などの技術的なことが集音される音にどのように関係するかを解説いただき、実際にドラム奏者を招き、比較収録をしながら、マイクの近接効果や背面特性、マイク間の位相を考慮したマイキングについて、氏より紹介いただきながら深く学びました。

2月15日(土)、本コース学生が、現代におけるアートのあらゆる可能性を探求し、音楽作品を制作しながら、映像や照明の演出表現を加え、アートと音楽の有機的結合をめざすコンサート、Kaleidoscope2020「ora」を本学2号館大アンサンブル室で行いました。本コース学生による音楽制作・PA・録音はもちろん、エンタメコースによる照明演出、メディアデザインコースによる映像演出、声優アクティングコースの学生による司会など、コース・領域を問わず、学生の自由な発想力で演奏会を構成しました。

サウンドメディアコース /
サウンドメディア・コンポジションコース 長江和哉





音楽ケアデザイン、音楽療法コース

9月9、10日には、アートマネジメントコースとの合同合宿を掛川つま恋で行いました。



異なる専門分野の学生、助手、教員が合同企画を軸に交流しました。本コースの学生も普段の専門性とは一味異なる作業を通して、新鮮な学びと交流を体験することができました。今後も他コースとの共同企画に取り組んでいきたいと思ひます。



11月30日、本学アートクリエイターコース主催の「記憶の庭で遊ぶ」プロジェクトのオープニングの音楽イベントを担当しました。西キャンパスの学生さんの作品が展示されている畳の部屋にみんなで集まって、今年もみんなで音楽する時間を設けてもらいました。一年生を中心にしたメンバーでしたが、みんなで音楽することを楽しむ姿は、教員としても感心するばかりです。また、アークリの学生さんや先生方が今を楽しむパワーを持っていらっしやって、本コースの学生にとっても非常にいい経験をさせていただきました。今後もこのような領域の垣根を超えた活動を続けたいと思ひています。

12月15日には、2号館大アンサンブル室にて、地域交流クリスマスコンサートを行いました。当日は、午前、午後の2部構成でどちらも会場満員のお客さんをお迎えすることができました。学生もこのコンサートに向けて練習や企画に励み、当日も本当に素晴らしいパフォーマンスを見せて



くれました。他にも、北名古屋社会福祉協議会との連携パフォーマンス、地域の福祉施設の利用者さんの即興演奏など非常に多彩で、ステージと客席の境界を取り払った本コースが目指すコンサートを実現することができました。

1月17日には、「臨床医学2」の授業において、名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 作業療法学講座 講師 星野藍子氏をお招きし、「精神障害を中心としたリハビリテーションとその方法」についてご講義いただきました。事例を通して精神科作業療法の理論と治療的な関わりをわかりやすくご説明いただいた後、メタ認知トレーニングの体験もさせていただきました。参加学生は、普段の勉強と関連付けるとともに大変楽しく学ばせていただく機会を得ました。



2月21日には、卒論発表会を行いました。それぞれがしっかりと準備を行い、各々の個性にあふれた発表を立派に行うことができました。また、4年生は、日本音楽療法学会認定音楽療法士(補)の試験勉強にも励み、見事全員合格することができました。卒業後の活躍に大いに期待したいと思ひます。



伊藤孝子

ミュージカルコース

エンターテインメントディレクションコース

今年度はミュージカルコース、エンターテインメントディレクションコース(エンタメコース)にとって、とても悲しい年となりました。前回の後援会報でもお伝えしたとおり、森泉博行先生がご逝去され、右往左往の1年でした。

今年度はあいちトリエンナーレ開催の年度でした。2018年6月にあいちトリエンナーレ舞台芸術公募プログラムに採択された、森泉先生の構想の「ジャパネスクワンダーランド」という作品。構想はあったものの、脚本や出演者香盤(誰がどの曲を歌うかなどのスケジュール表)、衣装香盤、M.LIST(使用する音楽のリスト)などは無かった状況から、主要教員に学生も加わり構築し始めたのが今年8月の初旬。公演日は9月29日(日)。約1ヶ月半でなんとか完成させなければと、真夜中や早朝にもグループLINEが飛び交う毎日でした。

そのように関わってくださった皆さんの努力のおかげで、衣装が決まり、舞台イメージが決まり、台本が決まり、少しずつ形になっていきました。そして何とか本番前日の大学でのリハーサルを迎える事ができました。

高山市から出演してくれる子供達も無事に到着し、ミュージカルコース、声優アクティングコース、ダンスパ

フォーメーションコースの出演者とエンターテインメントディレクションコーススタッフの全員が揃い、初めて作品を通して見ることになります。密やかで華やかな感動に包まれた日本人の「情」の世界を、ダイナミックに、ドラマチックに、躍動的に、スウィングジャズやタンゴなどの多彩な音楽に乗せ描いたこの作品。出演者もスタッフも集中の時間です。リハーサル終了後、高山の子供達の保護者の皆さんが号泣されているのを見て、明日の本番も、たくさんのお客様に感動を与えることができたらと、公演の成功を祈らずにはいませんでした。

さて、実は最後の難題が…。かなり作り込んだ舞台演出のうえに、本番会場は、日頃はクラシックコンサートを主に公演する「愛知県芸術劇用コンサートホール」。舞台機構もシンプルで、おまけに当日仕込で当日本番、もちろんその日の午後10時半までに完全に退館。この殺人的なスケジュールをこなさなければいけない。これが最後の難題でした。

会館が開き搬入が始まり、そして仕込み。仕込みが完了した時点で約30分ほどの遅れがありましたが、その後のゲネプロ（衣装も付け本番同様に行う最終リハーサル）も順調に進み、あとは開場を待つのみ。

当日の集客は毎回心配なのですが、今回も開場前には既に長蛇の列ができており、その光景にほっと胸を撫で下ろすエンタメスタッフ達でした。

会場いっぱいのお客様の中、幕が上がリ、ミュージカルコース、声優アクティングコース、ダンスパフォーマンスコースの学生達の演舞の始まりです。伴奏は弦管打コースとポップス・ロック & パフォーマンスコースの卒業生。高山の子供達による一輪車演舞や、学生達にひけを取らないレベルのダンス。ダンスパフォーマンスコースのヒップホップダンス。声優アクティングコースの朗読。いつものミュージカルコースの演舞にさらに彩りを添えて、とても1ヶ月半で作上げたとは思えない素晴らしい舞台を披露してくれました。

大学でのリハーサル同様、多くのお客様が涙を流して観劇されている姿は、キャストやスタッフ達にとって、何よりのプレゼントとなりました。

終演後、キャストや演奏者と違って、エンタメコースは、たった2時間でこの舞台を撤収～搬出という大仕事が残っています。怒号が飛び交う現場の中、エンタメコースの学生達の働きはめざましく、予定通り撤収、搬出を終えてくれました。

この作品を作り始めた8月1日から、森泉先生の遺影がミュージカルスタジオやエンタメ演習室廊下に、また、本番の時は楽屋通路に飾ってあり、私達に目に見えないパワーを授けてくださっているようでした。

ミュージカルコースはこの4月から、新たに塚本伸彦先生を迎え、森泉先生が遺されたDNAを受け継ぎながらリスタートします。

秋。

各コースの修了公演の計画の始まりです。エンタメコースは様々なコースの公演のスタッフを担います。ダンスパフォーマンスコース修了公演、声優アクティングコース1年修了公演、声優アクティングコース2年修了公演、カレイドスコープ、ミュージカル3月公演、ポップス・

ロック & パフォーマンスコースコンサート、オペラ公演、ジャンパスウィングオーケストラライブ等の数々の公演。これら全ての公演で舞台、音響、照明、制作等を担うことになっていましたが、今年度は残念なことに、ポップス・ロック & パフォーマンスコースコンサート、オペラ公演、ジャンパスウィングオーケストラライブ、ミュージカル在学修了公演が新型コロナウイルス感染対策の影響で、中止となってしまいました。

今まで各公演に向けて練習を重ねてきた各コースの学生達や、より良い舞台を作ろうと準備をしてきたエンタメコースの学生達の気持ちを思うと、大変悔しい気持ちがこみ上げてきます。ただ、大切な観客の皆さんを感染から守るために必要な措置であることを学生達もよくわかっています。

3月初旬から登校も禁止となり、音楽が一切聞こえないキャンパスですが、うるさいと思えるほどの学生達の元気な声や、練習をする楽器の音や歌声が早く戻ってきて欲しいと思います。

エンターテインメント
ディレクションコース
准教授 金子靖



ポップス・ロック&パフォーマンス コース

10月24日(木曜日)、今年度の第一回目となるポップス・ロック&パフォーマンスコース主催の公開講座を開催しました。これは本学学生と一般聴講者を対象としたもので、毎回第一線で活躍するミュージシャンを招いての公開セミナーとなっております。今回は、シンガーソングライター・プロデューサーとして活躍されている高野寛氏をお招きしました。高野氏は90年代前半のメジャーデビュー以来、多岐に渡る音楽シーンとメディアで活躍されています。シンガーソングライターを志すコース専攻学生が多いこともあり、会場は満員の聴衆が熱心に講座に聞き入る姿が見られました。自身の歌を創造して世の中に発信していくプロセス、ミュージシャンとして大事な意識や姿勢などを、飾ることなく本音で語り、実際に多くの曲を弾き語りで実演するその姿に、満員の聴衆は真剣に聞き入り感動していた様子でした。2時間の講座ではカヴァーしきれないことも多くあり、講座終了後も多くの学生が質問に訪れていました。



11月7日(木曜日)、本年度第二回目の公開講座では、アコースティック・ギタリストとして活躍している有田純弘氏をお招きしました。有田氏はスタジオミュージシャン、サポートギタリストとして森山良子氏の専属ギタリストをはじめ、福山雅治氏、椎名林檎氏をはじめとする多くのアーティストのレコーディング・ツアーに参加、日々コマーシャルや劇伴のスタジオワークを多忙にこなす、まさにアコースティックギター界の第一人者です。講座では、練習方法をはじめ、プロの音楽現場での仕事の様子、プロとしての心構え、さらにはミュージシャンにとっての英語力の必要性まで多岐に亘るお話で、参加した学生たちに大きな刺激を与えた様子です。後半では実際にセッションの実践的な内容となり、本学教員の上田浩司との実演を通して解説を行い、満員の学生たちが満足した結果となりました。



12月5日(木曜日)、2号館中アンサンブル室にて、有志学生企画運営による毎学期恒例の“Pick Up Live

Vol.6”を開催しました。このイベントはポップス・ロック&パフォーマンスのコース専攻学生および総合コースのポップス・ロック系実技レッスン8単位受講者を参加対象としたライブ企画です。これは同時にエンターテインメント・ディレクションコースとの合同企画イベントとなっており、本格ライブハウス仕様となる中アンサンブル室の設備をフル活用してのイベントです。このライブには1年生から4年生まで自由にエントリーできるシステムとなっており、学生の能動的なライブ活動につながる経験として大いに意義のあるものです。今回も選出されたバンド・ユニットが白熱した演奏を繰り広げ、観客である学生には大きな刺激となりました。

12月26日(木曜日)には、「NUA ステーション・ライブ」を開催しました。これは、ポップス・ロック&パフォーマンスコースの合奏(セッション)授業を受講している学生が、学期末の発表として行うものです。5名の担当講師のそれぞれのクラスからは、ポップス、ヴォーカル・アンサンブル、ジャズ&ポップス、ロックの多彩な内容で大学生ならではの活気溢れる演奏が繰り広げられました。このライブは同時にエンターテインメントディレクションコース学生の演習課題ともなっており、3時間近くにわたるイベントとして、まさにミュージックフェスティバルのような盛り上がりとなっています。



ポップス・ロック&パフォーマンス コース 上田浩司

アートマネジメントコース

アートマネジメントコースは、文化施設を主なフィールドとして、文化政策や企画制作、施設運営の分野で活躍できる人材、つまり“プロデューサー”、“ディレクター”となる人材の育成を目指し、理論と実践のバランスをとりながら教育活動を行っています。大きな特徴は、数多くの「現場」に恵まれ、実践的に学ぶ環境が整っていることです。本稿では、各学年の春から夏にかけての取り組みを紹介します。

・4年生

4年生は、これまでの知識と経験を駆使した卒業制作公演として、11月3日に小牧市公民館講堂で「森谷ト

リオが奏でる ジャズを知るためのコンサート Autumn Concert」を実施しました。制作費の管理や広報・券売の難しさ等、3年生までには経験しなかったことへの挑戦が続き、心の折れることもあったようでしたが、最後までやり切りお客様にお楽しみいただけたことで自信に感じたようです。

それと並行して執筆に取り組んだのが卒業論文です。学びを下地に独自性のある観点からテーマを選択し、それについて調査し、わかったことや推察されることを研究論文として執筆していくという挑戦でした。論理的思考や批判的思考に基づいた文章の執筆を大学生活で経験しておくことは、社会を見る目を養うことにもなります。卒業制作公演や就職活動と並行しての執筆をやり切った時の表情は晴れやかでした。

・3年生

夏休み期間中の8月25日に、(一財)こまき市民文化財団の自主事業「こまぶんフェスタ」における「ライブハウスこまぶん」の企画制及び運営を行いました。ゴスペル、クラシック、アイリッシュ、ダンスのライブを企画したり、デザイン領域3年生と一緒に話し合いを重ねながらビジュアルデザインの充実した設えのカフェを運営したりすることができました。後期には、次年度の卒業論文に向けて「研究」という未知の世界に着手し、日本アートマネジメント学会のポスター発表に参加しました。

4年生の卒業制作公演と卒業論文準備を整えて、3年生を終えることができました。その間に、それぞれがインターンシップにも参加し、収穫の多い1年間でした。

・2年生

4月から着々と計画した、大学発の地域貢献事業「音楽の森」を、無事に10月20日にやり遂げることができました。色々なハプニングもありましたが、シベリウス作曲「フィンランディア」をテーマに4つのワークショップを企画し、同日のオーケストラコンサートと連動させました。オーケストラコンサートのプログラムも学生たちが指揮者と話し合いながら考案し、クラシックの普及プログラムの全体の企画制作にかかわる良い機会となりました。

一転して後期は座学中心に進み、アートマネジメントに必要な基礎知識や用語の習得に励みました。学年末に向けて仮想企画の立案と運営のための具体的なシミュレーションを行いました。

・1年生

今年は、毎年担当している「てんぱく音楽祭」が会場となる天白文化小劇場の改修の影響で「天白まつり」の一部に組み込まれたため、1年生は野外フェスさながらの大規模野外イベントを経験するチャンスに恵まれました。ライブの企画制作、パレードの運営、子ども向けワークショップの運営等、多様な経験を積むことができました。

このようにアートマネジメントコースは、他領域横断、異学年横断、と視野と人脈を広げながら実践的に学んでいます。今後とも、ご父兄の皆様にはご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



声優アクティングコース

声優アクティングコースも2年目となり、今期からたくさん新しい講師陣を迎えた事で、より実践的な授業を行えるようになりました。

例えば、現役ナレーターの講師による、基礎の発声や滑舌から、現場で必要とされるナレーションの授業、プロの声楽家の講師による、歌唱の基礎を学ぶ授業、現役の殺陣師の講師による、殺陣の基礎を学ぶ授業、さらに、僕自身も現役のアニメ音響監督という事で、実際にスタジオを使用し、プロと全く同じ方法でのアニメアフレコ



実習の授業を行いました。こうした授業により、学生達のスキルは大幅に上昇し、はっきりと成長の見える1年となりました。

夏のOCでは、アニメ「ポケットモンスター」の主演、サトシ役で人気の声優、松本梨香さんをゲストにお呼びし、軽快なトークや質問コーナー、最後にはライブショーも行って頂き、大反響のイベントとなりました。

年度末の修了公演では、1年生は応援団をテーマとした舞台公演と、アニソンのライブショーを行い、なかなか殻を破れなかった学生達も、この公演を通して一皮も二皮も剥け、成長する事ができました。



そして、2年生の修了公演では、「2.5次元 Sound Reading 手塚治虫『百物語』」という朗読劇を行いました。「2.5次元」とは、2次元の漫画やアニメを3次元の舞台にする事で、今回は、手塚治虫原作の漫画「百物語」を朗読劇に仕上げました。「Sound Reading」とは、ただの朗読劇ではなく、音楽は全て生演奏、楽曲も全て今回のために作曲して頂き、全20曲という大作となりました。

さらに本番中、「ライブ・ペインティング」といって、朗読の盛り上がりに合わせて、アートクリエイターコースの生徒達2人が登場し、生でセットの壁に絵を描いていくというパフォーマンスも行い、観客も驚きの演出となりました。

公演は想像以上の完成度となり、再演希望の声も上がっています。



来年度はさらに学生数も増えるので（3学年で90人ほど）、より学生達にとって実践的で、楽しいと思える授業を行っていきたくと思っています。

ダンスパフォーマンスコース

2019年度新設されました本コースは、8名の新入生と共にスタート致しました。

将来的にダンサーとして、バックダンサー、ミュージカル、テーマパーク、イベント等、様々な場面に対応出来るダンス力を身に付ける為、まずは、各ジャンルの基礎から学び、同時に音楽的要素等の授業において、多方

面からダンス・舞台の知識を深められる環境で、少人数ながら個性豊かな学生達は学んでおります。

大学生活に少し慣れてきた5月9日、本学特別客員教授 KENT MORI 氏の特別講義を行いました。スタジオにてダンスレッスンの後、大アンサンブル室に移動して、質疑応答形式の講座となりました。世界の舞台で活躍しているダンスアーティストの KENT MORI 氏のパフォーマンスに刺激を受け、メンタル面でも大きな収穫があったようです。

7月7日のオープンキャンパスでは、3号館ホールにおいて、初めての成果発表。初めての学校行事への参加となりました。音響、照明をエンターテインメントディレクションコースが担当し、音と照明のみのライティングショーもプログラムに組み込みました。入学して約3か月、緊張の中、約20分間の初パフォーマンスでした。

9月29日、あいちトリエンナーレ ドラマチック・ミュージカルコンサート『JAPANESE WONDERLAND「情」に彩られた古の風景への旅～振り返ればそこに未来がある～』に、ミュージカルコース、声優アクティングコースと共に、ダンスコース男子5名が出演致しました。芝居、歌にも挑戦し、夏休み中のリハーサルから、貴重な経験となりました。

12月26日、2回目の KENT MORI 氏の特別講義を行いました。学生達は披露したパフォーマンスに対して厳しい指摘を受け、忘れていた物を思い起こさせられたようです。前回同様、刺激の多い熱い講義でした。

1月18日、東キャンパス2号館、中アンサンブル室にて、第1回修了公演「DAN PA！」を開催しました。舞台製作、照明、音響をエンターテインメント・ディレクションコースが担当し、オープニングの音と照明のライティングショー、メンバー紹介も兼ねた映像を製作して頂きました。彼らの協力もあって、小さな会場ならではの迫力が伝わる約30分間のパフォーマンスとなり、1人1人から1年間の成長を感じる事が出来ました。

2月19日、ミュージカルコース卒業公演に出演しました。歌あり台詞ありのステージにチャレンジ、しっかり練習に取り組み、楽しいステージになったようです。

初年度は計5回行いました TAP 授業も、来年度から毎週の実施となり、より技術習得が期待されます。継続する事でスキルアップ、ステージイベントの経験を通して成長していく姿が楽しみです。





ウインドアカデミーコース

本年度始動した本コースには現在総合コースの学生を合わせて13名の1期生が共に学んでいます。コースの

授業は「吹奏楽指導」「管楽器リペア」「指揮法」「楽器奏法」という4つの柱があり、それらを通じて1年間学んだことにより学生一人一人が大きく成長してくれました。

後期の中心的な取り組みはそれらの学びの成果の発表の場として年度末に第1回定期演奏会を開催する事、そしてそれに向けて役割を受け持って演奏会に向けて取り組む事でした。

チラシ作りや SNS などを利用した広報活動、エキストラの依頼や謝礼の設定などのマネジメント要素や、プログラムを選曲や指揮を振り楽曲を作り上げる音楽的要素など、演奏会を作る上で必要な要素から様々な学びを得る事ができました。また学生一人一人が自分の得意な部分を把握して役割を果たす事でそれぞれの個性を引き出す事ができました。

第1回定期演奏会は2020年2月28日に開催されましたが、新型コロナウイルスの影響で無観客、ライブ配信という意外な形での実施となりましたが、2日前にその形態で開催する事を決め、それに向けての学生たちの取り組みは目を見張るものがあり1年間の成果を十分に発揮できた演奏会となりました。ライブ配信にあたってはサウンドメディアコースの学生にも協力してもらい素晴らしい音響で多くの皆様に観賞して頂く事ができました。

その他の活動では弦管打コースと共に2019年10月24日(木)三井住友海上しらかわホールにおいて「名古屋芸術大学ウインドオーケストラ第3回定期演奏会」や2020年2月22日(土)名古屋芸術大学東キャンパス音楽堂において「名古屋芸術大学ウインドオーケストラ早春コンサート」などを開催しました。



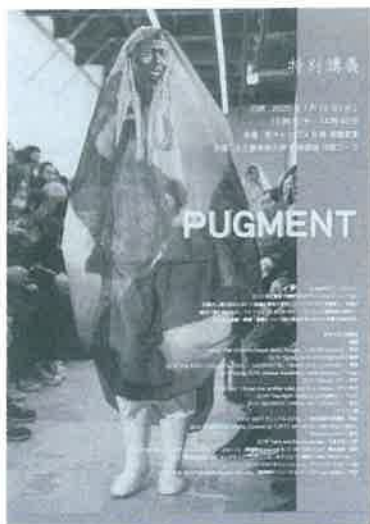
美術学部 / 芸術学部 芸術学科 美術領域

美術領域では後期も様々な実技授業や特別講義、講評会などのイベントが数多く開催されました。



撮影：怡土鉄夫

今年度の美術領域は特別客員教授に現在最も国際的に活躍する現代アーティストの泉太郎氏を本学に迎え、様々なイベントを開催しました。泉氏は映像、パフォーマンス、ドローイング、絵画、彫刻などあらゆるメディアを交錯させたインスタレーションを主な表現手法とし、現代美術館 Palais de Tokyo（パリ）や金沢 21 世紀美術館などで近年大規模な個展を開催し、国内外で精力的に作品を発表しています。まず10月4日に特別講義が行われ、また学内A&Dセンターでは10月26日～11月12日の会期で本学の学生と一緒に制作した大規模な展示が行われました。泉氏自身が過去に経験した「芸術大学」という特殊な教育機関に今一度関わることにより着想した複数のインスタレーション作品で話題となりました。



そして1月15日には、B棟視聴覚室にてアートとファッションの領域を横断して活動するファッションブランドにして、アーティストコレクティブのPUGMENT（大谷将弘、今福華凜、ともに1990年生まれ）を招き、特

別講義を行いました。東京都現代美術館、東京都写真美術館など近年ではアート分野での活躍の幅も広げるPUGMENT。ともに大学では油画専攻ということから、学生時代の気づきから現在の活動に至るプロセスをプレゼンしました。領域の横断、他者を巻き込んだ集団的な表現法など、学生に多大な気づきを与えた意義のある特別講義となりました。



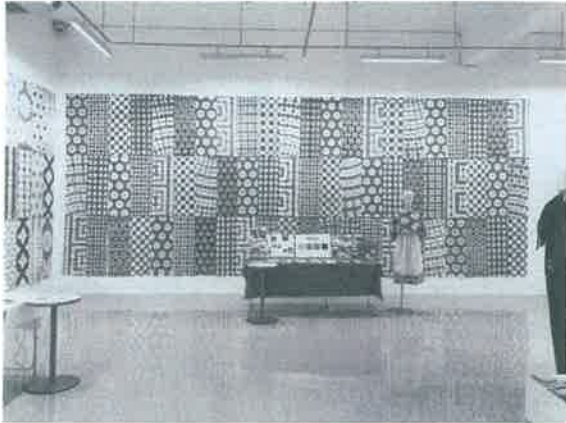
日本画コースでは1、2年は日本画材研究の一環として京都の絵具工房へ、また奈良にて墨のレクチャーを受講。3年は阪本トクロウ氏の公開講評と、レビュー展にて佐藤美術館館長である立島恵氏、美術の窓 野崎真鳥氏の公開講評、4年は芸術院会員、客員教授である土屋禮一氏による2回の講評会を行いそれぞれ多角面からの意見や思考を提供され今後の取り組みへの指針となりました。



アートクリエイターコースでは、名古屋みなと蔦屋書店（ららぽーと名古屋みなとアクルス内）から X 'mas の雰囲気を楽しめる空間にしてほしいという依頼をいただき、2年から4年生、大学院生までの総勢14名の学生たちがお客さんに楽しんでもらえるようにたくさんのアイデアを出し、そこから打ち合わせを何度も行い制作しました。11月から12月末までの展示期間中、本棚から飛び出す動物のディスプレイや、店内のスターバックスの屋根に停めた大きなソリ、X 'masプレゼントの配達中にホッと一息ついたサンタクロースなど、来店された大勢の方に店内装飾を楽しんでいただきました。

デザイン学部 / 芸術学部芸術学科デザイン領域

デザイン領域では、今年度も各分野で活躍されているデザイナーを招聘し、ワークショップや展覧会などを開催しました。その活動をまとめた、展示をADセンターで行いました。



1,2,3年の
全学年レビュー



学内開催の
卒業制作展

2019年度卒業制作展も昨年に引き続き、大学学内で2月21日から3月1日まで開催されました。直前まで授業で使用していた教室などを学生自らの手で展示空間へと作り替えました。作品制作の追い込みと展示空間制作が重なり、かなりの負担が学生には、かかることになるが、4年間共に学んだ友人と展示空間を作り上げた事は、よい思い出にもなり、与えられた展示空間ではないことで自らの作品を世に問う姿勢が一層強められたと思う。デザインは世に自らの作品を発表し、そこでの反応を次回の作品制作への糧とすることが大切であり、全ての卒業生にとって原点に戻ってそれをもう一度考えるいい機会になったのではないだろうか。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大防止で、いくつかの行事が中止を余儀なくされた事は、非常に残念なことであった。

また、1,2,3年生にとっては、レビューが1年間の自身の制作を振り返り、展示や講評、公開による一般の方からの反応などが、次の制作に繋がる機会になっています。

・ファウンデーションからの報告

ファンデーションプログラムの後期最終日には、合同課題として一年生のクラス全員で一つのアニメーションを制作するワークショップを行いました。各自がコマを担当し、隣り合う人と相談しながら描き、それらを最後につなげてアニメーションを完成させました。グループでの共同制作の機会が少ない一年生にとっては、大勢で一つの作品を共に制作する貴重な機会となりました。

また、1月には初めてとなるレビュー展に取り組み、一年間の課題や自主制作物をそれぞれに割り振られたブースに展示しました。大学入学後の成果をそれぞれ一覧して振り返る良い機会となりました。また、レビュー展では上級学年の展示を観覧することで、来年度以降、専門性を深めていく上で挑戦したいこと、そのために自分

にまだ足りない点をなどを意識することができました。



・ビジュアルデザインコースからの報告

◎3年生が前期課題で取り組んだ「ブランディング」の展示を10月15日-21日まで X ギャラリーで行いました。4つのグループが、アイデア出し、ディスカッションを経て世の中にあったら良いと思う架空のブランドを設定し、市場の調査、分析からコンセプトを組み立て、ネーミング、ロゴマーク、サービス、商品パッケージ、広告、プロモーションツール、展示までの一貫した企画制作を行いプレゼンテーションをしました。

◎JAGDA 愛知が主催する ONE DAY SCHOOL・企画展「芸どころなごや」にコースから4名が参加しました。400年の歴史のある「料亭 河文」の若女将の講義や、日本古典楽器や芸妓舞妓演舞などのレクチャーを受け、「芸どころなごや」をテーマとしコースター制作を行いました。「料亭 河文」にて作品展示も行われ、中日新聞など地元新聞社に紹介されました。

◎今年度、客員教授としてお招きした田中晋先生の授業の成果を発表した展覧会が、2020年1月11日-21日、アート&デザインセンターにて行われました。「文章のみで組みの本をつくる」ことをメイン課題としたこの授業は、タイポグラフィのみならず、その基礎にある「視覚感」を養うことを目的としています。会場には25名の学生作品と、授業で配布されたテキストや資料が展示されました。

◎津島市との官学連携授業として、コース2年生がコミュニティバスの利用促進の提案・企画制作とバス停留所のサイン制作に取り組みました。2020年2月5日-16日まで津島市観光交流センターにて提案・企画の展示とプレゼンテーションを行い、市民の方々からご意見をいただける貴重な場となりました。プレゼンテーション当日は津島市長にもご参加いただき、優秀賞の発表・表彰も行われました。選ばれたデザインは、来年度からバス停留所のサインとして使用される予定です。

◎コース展として3年生が取り組んだ「ナゴヤ展」が、昨年に引き続き2月14日~18日まで、名古屋城の本丸御殿 孔雀乃間を会場に行われました。

「名古屋城の本質的価値を伝える」をテーマに23人が様々な着眼点、表現方法でデザイン提案を行いました。新聞やテレビなどのメディアにも取り上げられ、5日間の期間中で約6,000人もの来場がありました。



・イラストレーションコースからの報告

2019年度は、大幅に変更したカリキュラムを軌道に乗せるために、試行錯誤の一年となりました。

「第6回東京装画賞」では、2、3年生が課題として取り組み、3年生の酒井美和さんが金賞および審査員賞、平和紙業（協賛企業）賞に同じく3年生の杉浦芽生さんが受賞しました。その他3年生の額額澤月さん、酒井美和さん、篠田司さん、山下みのりさん（2点）、2年生の田中嵩人さんが入選しています。



酒井美和「夜のピクニック」



杉浦芽生「魔女の宅急便」



額額澤月「魔女の宅急便」

10月には、絵本作家の三浦太郎氏を招聘し、絵本制作にかんする講義と作品の講評会を行いました。



12月には、先輩を呼んでの進路相談および講習会（写真講習）を行いました。現場の生の声や学生時代の取り組み方など、具体的な話を聞く機会となりました。今後も上下のつながりを作っていくような機会を増やしていきたいと思ひます。

また、本年度は美術館にたくさん行くことを計画しました。



出来るだけ複数回実施す

るために、少人数でも希望者を募って瞬発力を活かして見学することを実験的にやっています。夏季休業以降、以下の美術館を見学することができました。

金沢21世紀美術館

- 「大岩オスカル 光をめざす旅」展
- 「特別展示 名和晃平 Foam」展
- 「現在地：未来の地図を描くために [1]」
- 「粟津潔 デザインになにができるか」

富山県立美術館

- 「瀧口修造 / 加納光於《海燕のセミオティック》2019 詩人と画家の出会い交流創造」

石川県立七尾美術館

- 2019 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展

岐阜県立美術館

- 「リニューアルオープン特別企画 2 セカンド・フラッシュ」

森美術館

- 「未来と芸術展：AI、ロボット、都市、生命——人は明日どう生きるのか、豊かさとは何か、人間とは何か、生命とは何か」

東京都現代美術館

- 「ダムタイプ —アクション+リフレクション Dumb Type. Actions + Reflections」展
- 「ミナ ペルホネン / 皆川明 つづく」展
- 「東京藝術大学 卒業制作展」



・メディアデザインコースからの報告

メディアデザインコースでは、堤幸彦監督監修のもと名古屋芸術大学で制作された「北名古屋市プロモーションムービー」が完成し、2月14日より北名古屋市のHPにおいて動画が配信されてます。その後新聞等のメディア取材に学生が主体的にインタビューを受けて貰い、学生目線による北名古屋市の印象や、映像作りの思い出を語ってもらいました。また栄にある「クリスタル広場」が2019年11月新しくリニューアルオープンするのに合わせ、7大学との映像コラボ企画「LED. 実行委員会 (Leading Educational group for Display research.)」にメディアデザインコースより7名参加し、学生映像作品が上映されました。普段とは違う環境の中で多くの人に映像作品を見てもらえる機会がありました。



・メディアコミュニケーションデザインコースからの報告

2019年度は前期、後期で実施されたプロジェクトとして大府図書館展示（会期から10月20日）澁谷克彦特別客員教授の講義ワークショップ、作品展示発表があります。



MCDでは1期生の頃から客員教授であるブックデザイナーの祖父江慎氏の授業があり、本の基本デザインと独創性を同時に考え・創るユニークな指導でブックデザインを学びます。その経験はその後の課題に生かされ、12年間で多くの個性あるオリジナルブックが作られてきました。大府市のおおぶ文化交流の杜図書館で開催された「Art Obulist (アートオブリスト) の今年のテーマ「本」の企画として、MCDが制作した30数点の本が展示されました。

澁谷克彦特別客員教授の授業

前期6月にグラフィックデザインについての講義、7月9日2回目の授業で、テーマは「コミュニケーション」。コースの名前にコミュニケーションが入っているからMCDコースをアピールするポスターでもよい。例えば大学の広報用とか、と課題をだされました。8月8日に個人チェックがあり、後期には9月に講評会がありました。資生堂のインハウスデザイナーとして長年勤務された澁谷先生の洗練された美しいデザインは、資生堂のイメージとして広く知られています。

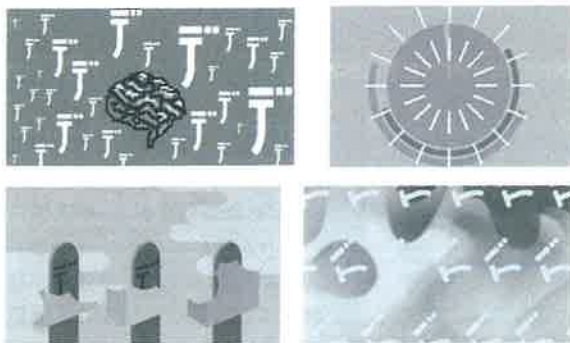


1月に開催された特別客員教授展で澁谷先生の作品と学生の作品、講評会の映像などが展示されました。

NHK名古屋の企画番組である一全てのデザインには理由がある。「デデデザインって何?!」一にMCDの卒業生と3年生が参加しました。この番組は5分



でデザインに関する理由をラップで紹介する番組です。ラップを歌っているのが東京でグラフィックデザイナーをしながらラッパーとして活躍するMCDコース出身のOBです。後輩のMCD3年生が2秒のクラッチ（間を繋ぐ短い映像）を制作しました。アニメーションを3本しか作ったことのない学生たちがいきなりNHKの番組の中で（しかも全国放送）ながれる映像を本当につくれるのだろうか、...。3年生の4名の学生も（担当教員も）緊張のなか何度もダメだしをいただきながら、なんとか番組で使っていただけました。「岐阜県各務原市の巻」では藤井一樹君、「リニモの巻」では山川美羽さん。「ういろいろの巻」では高橋圭祐と飯嶋健輔君。



その他、豊橋市自然史博物館との連携が前期にここ2年継続しているが、新たにのんほいパーク豊橋動物園とも連携がはじまった。成果は次回お伝えする。

・ライフスタイルブロック デザインマネジメントコースからの報告

デザインがどのように私たちの生活と密接に関わっているのかを知り、その本質へと実行力を持ったデザイン提案ができるよう、ライフスタイルデザインコースでは、現場での学びを大切にしています。その一環として、各地の自治体や企業とも連携し活動する機会を多く用意し

ています。2019年度には、北名古屋市プロモーションムービー制作プロジェクトが行われ、堤幸彦監督監修のもと映像制作を行いました。参加した学生たちは北名古屋市の伝えるべき魅力を探るため、市内の場所や人の調査からプロジェクトを開始し、夏休み期間をかけて制作、2月14日に北名古屋市役所ホームページ上で公開されました。

また、レゴランド・ジャパンとの産学協同事業として、グッズや企画開発プロジェクトも行われました。レゴランドを実際に訪問しレゴランド・ジャパンから会社の体制やグッズや企画開発の方針などの説明を受け、現場で直接、運営方法や来客者の行動リサーチを行うことから開始されました。後期にはアイデアを複数回にわたりプレゼンテーションし、モックアップ制作を進めました。今後、提案されたアイデアを基に実際にレゴランドでの商品化も検討される予定です。これらのプロジェクトは、他領域・他コースとの連携のもと多くの異なる専門性を持った学生らが集まり一緒に進めていることも特徴的です。北名古屋市でのプロモーションムービー制作では、メディアデザインコース、アートマネジメントコース（音楽領域）、音楽総合コース（音楽領域）の学生とも一緒に活動しており、レゴランドでの商品開発では、ヴィジュアルデザインコース、デザイン領域1年生とも協働しました。

また今年度より「Lifestyle Design Thought and Talk」と題し、社会的関心事や現代的な課題をデザインの視点から熟考するための機会として、外部からゲストを招き行うレクチャーシリーズも開始しました。これまで、ドキュメンタリー映画制作を通じて社会課題を問いかける戸田ひかる氏、認知症にデザインでアプローチしているNPO法人 issue+design の稲垣美帆氏、企業の立場から社会貢献を試みている良品計画・企画デザイン室長の矢野直子氏らを招き開催されました。今後も多彩なゲストを交えながら、学生たちと同時代的なデザイン分野やその在り方について深く考える機会としていきたいと考えています。

今年度の卒業制作展では例年に引き続き、ゲスト講師を招いての公開プレゼンテーションを行いました。学生たちは、面矢慎介氏（滋賀県立大学・道具学）、石川新一氏（東南西北デザイン研究所・デザイナー）を前にそれぞれの卒業制作を端的な画像と選ばれた言葉でプレゼンテーションしました。それぞれが長い時間をかけ丹念に作り上げた作品を振り返り、ゲスト講評者からの言葉を受け止めていた様子が印象的でした。

今後もライフスタイルデザインコースでは、生活と社会の現場への深い理解に根ざしたデザインを生み出すための教育と実践を重ねていきます。



北名古屋市プロモーションムービー制作、市内各所での撮影



レゴランド・ジャパンとの産学協働による商品開発プロジェクト、商品・サービスの企画提案を行う



“Lifestyle Design Thought and Talk”
良品計画 企画デザイン室長
矢野直子氏特別講義



卒業制作展公開
プレゼンテーション

・テキスタイルデザインコースからの報告

「尾張名古屋の職人展」帽子ファッションショー

10月19日 名古屋市中区栄 オアシス21銀河の広場
名古屋帽子協同組合からの依頼で、尾張名古屋の職人展に参加した。

7回目となる今年度は「エモイ」をテーマに、3年生がデザイン、作成した布を名古屋帽子協同組合が縫製、学生自身がモデルになって出演した。



有松絞り手ぬぐいブランドプロジェクト

有松とドイツのデュッセルドルフを拠点に世界展開する(株)suzusanクリエイティブディレクターの村瀬弘行氏を特別客員教授に招き、3年生が有松絞り手ぬぐいブランドプロジェクトを行った。手ぬぐいのブランドコンセプトを考え、商品を企画・生産し、販売ショップをプロデュースする授業である。今年、「お茶の子」と「ケセラセラ」の2つのブランドを作った。

来年6月に行われる「有松絞りまつり」で学生が販売する。



総合展「THE 尾州」

2月19日～21日 一宮市総合体育館

・3年生が織物組織からデザイン、尾州産地が生産するテキスタイル開発プロジェクト「NUA textile lab 尾州4th season」の布を展示した。

・「尾州の匠ものづくりリレー」で4年生伊藤颯馬さん、角屋空美さんが尾州産地で1年間の研修を受け、デザイン・産地で生産した布を展示。この事業参加がきっかけとなり、伊藤さん、角屋さんは尾州産地に就職が決まった。



・「翔工房」で3年生 絵美里さんがデザイン、尾州産地で生産した布をファッションショーに出品した。

コンテスト入賞

ジャパンテキスタイルコンテストで4年生中嶋すみれ

さんシーズ賞受賞、4年生森山茉弥さんがシーズ賞受賞。

染織意匠・図案コンペで2年生新木萌愛さんがニカラグア共和国金賞受賞、2年生横山ゆうさんがニカラグア共和国銀賞受賞。

活動の様子はこちらをご覧ください。

Face book: NUAtextile

・メタル&ジュエリーデザインコースからの報告

●前期に開催した秋濱克大ワークショップ(メタル工房 7/23 火)に引き続き、本学卒業生である神谷光洋氏/RatRaceによるリユーター彫りの実演実習(ジュエリー工房 11/26 火)、株式会社ミキモト装身具大石淳氏(人事、採用担当)による会社説明会及び同増田泉氏(クラフトマン)によるミル打ち実演(B大講義室 12/10 火)を開催いたしました。各界の最前線で活躍する三人の彫り師の実演を学生は堪能しました。秋濱克大氏は和彫りで現代感覚を生かした一点もののジュエリー製作、神谷光洋氏は鑄造したシルバーアクセサリーにリユーターで彫っていくカスタムジュエリー、増田泉氏は株式会社ミキモト装身具専属のクラフトマンとしてミキモト最高級ラインのジュエリー製作を担ってきました。



神谷光洋氏/RatRaceによる
リユーター彫りの実演実習



株式会社ミキモト装身具 増田泉氏による彫りの実演、
彫っている手元をB大講義室のスクリーンに拡大撮影した。

●七宝作家、春田幸彦氏を特別講師としてお招きしました。(A302 10/4 金)

・プロジェクターで作品を紹介していただいた後、春田氏の作品実物を鑑賞しました。

・春田氏は挑戦的な作風で知られる気鋭の七宝作家です。



春田氏の作品を鑑賞する学生達

●春田氏の特別講義の翌日10月5日にあま市七宝アートヴィレッジを訪れ、2～4年生が有線七宝の製作を体験しました。同施設は「尾張七宝」として伝統的工芸品の指定を受けた「七宝焼」について学べる施設として、歴史や製作工程、過去の名品等の展示があり、制作体験も出来る施設です。館長から資料の説明を受け、ワークショップでは熟練した職人さんに直接指導を受けることが出来ました。次年度は毎年秋開催の七宝新作展時に授業で制作した作品も展示される予定です。



あま市七宝アートヴィレッジ
展示室で鑑賞する学生達。

・インダストリアル&セラミックデザインコースからの報告

長崎工業株式会社との産学協同プロジェクト選抜学外作品展開催。

2019年9月14日～16日 星ヶ丘テラス西3階TODO店舗の展示コーナーで、今年度の長崎工業株式会社のアウトドアブランド『flames』のバーベキューセットをサポートする商品開発を行い、学生作品28点の中から7点を選抜して学外展示会を開催。開催中来場者に気に入った作品にビーンズ(いんげん豆)をシャーレに入れてもらうスタイルのアンケートを行い、市場調査も合わせて行い、今後の商品開発の市場調査の資料とした。



卒業制作展開催

2月21日～3月1日まで X 棟3階でインダストリアル&セラミックデザインコース4年生15名の卒業制作作品展を行った。今年は例年よりセラミックデザインに挑戦した学生が10名 紅茶ポットをキャンドルで温めるティーセット、壁面へセラミックで新たな挑戦をした学生、日々の生活にセラミック素材を活用して新たなアイデアを提案していた。

インダストリアルデザインでは、京都アニメーションの悲劇から「吊う」をテーマに吊う側から毎日吊った物の始末、お炊き上げに持って行く作業側の重労働に目を向け、「郵便の機能を活用して循環サイクルを導入することで重労働の軽減を考えた作品」や、通学に往復4時間かかっている学生が突然4年生になって頸椎を痛め、ベッドから起き上がれなくなった自らの経験をテーマに、「通勤通学時に姿勢を保持できるディパック」の提案など、「人を中心に考えた社会へ提案できる作品を発表した。



・カーデザインコースからの報告

カーデザインコースでは、特別客員教授に田中昭彦氏をお招きした特別プログラムを開催しました。田中昭彦先生はヤマハ発動機のデザイナーとして多くの二輪車や汎用機器を手掛けていますが、これと同時に自動車技術会デザイン部門委員会の委員長として自動車デザイン界をまとめ、高校生を対象としたカーデザインコンテスト、小学生対象のキッズエンジニア、本学で開催された二輪デザイン公開講座など、次世代のデザイナーを育てるプロジェクトを多く実施しておられます。今回はテーマを『低速移動が作る価値で、毎日楽しく過ごす乗り物』としてカーデザインコースの2、3年生が未来の移動機器に挑みました。ゆっくり走ることが楽しいパーソナルモビリティを前提とし、自動車・バイク離れ、高齢化、自動運転の普及が進む中、小さく・低速のモビリティの価値を見直しました。電動?アシスト?... 時速25km/h以下の新しい乗り物を、誰が、どう使い、どう楽しいのか、生活や暮らしにどう良いのか、を人物の居るスケッチとモデルで表現し提案しました。制作途中で東京モーターショーも見学、会場でもレクチャーを受け、今後、移動がどのように変わっていくのか研究。完成した作品は子供用、高齢者用、あるいは水中での移動を提案するものまであり、いずれも独創的なアイデアばかり。作品はレビュー展と、同時期に開催された特別客員教授展で公開されました。



・スペースデザインコースからの報告

スペースデザインコースでは、授業内での作品制作だけでなく学内外の展示・発表を積極的に行っています。

2年生は、毎年秋に美濃市で行われる「あかりアート展」に、美濃和紙を使った照明を制作し、歴史的な町並みに屋外展示する予定でしたが、台風で中止になってしまったので、芸祭の時にギャラリーで展示しました。

また名古屋市の紙屋さん「ベラム」のショールームで、その場所のリノベーション案を模型や図面、商品案などを展示してもらいました。

自身の出身地を紹介するメディアとしてのゲストハウスの課題ではグループで実制作に取り組みました。



和紙のあかり学内展示



ペラムショールームでの展示



卒展会場



実技2ゲストハウスの実制作



平田教授退職記念展

3年生は子どものための読む空間で使用する家具を制作し、学内展で展示、実際に会場で使用してもらい大盛況でした。2月にはギャラリー間、芸大卒展、ミナベルホネン展、など東京で開かれている展覧会巡りをしました。有志の学生と竹のドームを小牧市のホールでのコンサート用に制作しました。



SDコース展3年生展示風景



東京展覧会めぐり



竹ドームの制作

今年度も卒業制作展が学内開催のため、スペースデザインコースでは日頃の実技室を、作品と空間が一体化した展示空間として、学生自らで作り上げました。また同時開催で、今年度限りで退職される平田哲生教授の記念展示が常滑と木工準備室で開催され、卒業生も多く集まり、約40年間に渡るモノに対する愛情や学生との良い繋がりを感じられる送別会となりました。

・文芸・ライティングコースからの報告

文芸・ライティングコースでは、10月9日に PAP でらしね主催の朗読劇「家族の声、もしくは…」のゲネプロを観劇し、舞台における言葉の使われ方について学びました。また、昨年と同様にラジオドラマの制作を行い、2年生が前期に書いた脚本をブラッシュアップし、声優・アクティングコースとサウンドメディア・コンポジションコースとのコラボレーションにより本格的な作品に仕上げました。完成したラジオドラマは、デザイン領域のレビュー展で展示すると共に、ア “ー！ラジオ2020で放送されました。

今年の1月11日には、第3回スクーリングの企画として、B棟大講義室にて文芸・ライティングコース客員教授の増田俊也先生と角川書店の編集者上野秀晃氏・山崎貴之氏との対談（「こんな新人作家が欲しい！」）を開催しました。

1月25日には、文芸・ライティングコースとデザイン基礎演習Eの学生が創作した手作り絵本を、人間発達学部の鎌倉博先生ご協力のもと、本学附属のクリエ幼稚園の作品展で展示し、多くの来場者から感想を頂きました。

前期の6月から進めてきた本棚企画の集大成として、それぞれの学生が執筆した「本棚レポート」と「今年の一冊」をまとめた『ワタシたちの本棚』という冊子を制作しました。



ラジオドラマ制作



クリエ幼稚園での創作絵本の展示

芸術教養領域

芸術教養領域の2019年度における教育活動を中心に報告します。領域のポリシーやカリキュラム、活動全般については、本誌バックナンバー（63～67号）や、領域のWEBサイト（www.nua-la.jp）をご覧ください。

三カ年の授業を終えた芸術教養領域

芸術教養領域は2017年4月にスタートしました。本稿執筆時の3月上旬段階では、3カ年の授業が終了しており、学生たちは、それぞれ意義ある春休みを過ごしていることでしょう。

芸術は、教養にとって、欠くことのできない分野で、そのことは、教養のルーツをたどっても、明らかなことです。芸術教養領域は、現代社会で広く活躍できる知見と技術、思考力を備えたジェネラリストを育成する、時代が求める学びの領域です。専門性のみを追究するのではなく、芸術大学の中に「社会」を呼び入れ、複眼的なもの見方やコミュニケーションの力をつける学びを展開します。そのような意味で、教養を身につけた人たちが、社会に送り出すことが、芸術教養領域の教育目標です。日々変貌しつつある社会において、卒業生たちが大学時代に培った力を発揮し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、社会を支え、つくっていくことを願って、教育に取り組んでいます。それにむけ、芸術教養では、五つのリテラシーを身につける実技・演習科目、視野を広げ知識を獲得する講義科目、現代の課題に挑戦する「プロジェクト」と成果発表の場「レビュー」、そして卒業研究とセミナーを必修にしています。

五つのリテラシーを身につける

芸術教養領域では、ビジュアル、サウンド、日本語、英語、情報の五つのリテラシーを身につけ、使いこなすための実技・演習科目を複数設定しています。



視覚的、聴覚的なリテラシーを養うための実技系科目を、1年次に履修します

（ビジュアルリテラシー 1・2、サウンドリテラシー 1・2）。その後、日本語・英語・情報のリテラシーを学びます。これら五分野のリテラシー科目では、カメラオブスクラやグラフィック、領域のテーマソングや簡易な楽器、サウンドドラマや、キャンパス紹介プロモーションビデオなども制作しました。今年度からは、さらに、「ムービー制作」「インターメディア表現」「ビジュアルプランニング」「身体と言葉の表現」「英語プレゼンテーション」といった、展開科目も開講されました。リテラシーをより実践的に展開し、また深めていく実技・演習科目に、受講生たちは熱心に取組み、成果をあげていました。

講義系の授業として、視覚や聴覚の様々な文化について知るための「視覚文化」や「サウンド文化」なども1年次に開講しています。今年度からは、「文化と経済」「メディア論」「芸術と科学」「テキスト文化」「芸術の記号論」などの講義も始まり、充実しています。多彩な講師たちから、深い知識を得、課された長文レポートの作成に、受講生たちは立ち向かいました。ビジュアルやサウンドを使うとともに、文章で表現することは、社会で生きるための重要な力であると、芸術教養領域は位置づけています。

特別講義と体験を通して視野を広げる

視野を広げる科目も多岐にわたります。さまざまなゲストのお話を聞いて考える「教養と現代1」、「教養文化と職業2」、「教養と地域文化2」では、それぞれ五人ずつ、研究や社会、地域で活躍されている人々をお招きしました。現代、何が問われているのか、どのような仕事が必要とされているのか、地域で必要とされているのは何か、学生は、講師のお話に刺激をうけ、それへのコメントを書き、考えたことをまとめ、レポートに取組みました。

国内外の多様な文化にふれ、人々や地域を観察し、気づき、レポートする「海外研修」や「異文化体験」もあります。隔年開講の「海外研修」、今年度は、ヨーロッパの都市、フィレンツェ、ウルム、ヘルシンキを12日間かけて巡りました。それぞれ、ルネサンスの歴史の街、



戦後の造形教育の原点、現代のデザイン・建築の都市として、個性的で魅力的、そして安全な地です。フィレンツェでは、教会で開かれたオペラ音楽の演奏会、ヘルシンキではポップ音楽のフェスティバルに参加することもできました。受講生は、事前にテーマを決めて、調査をし、研修に向かいます。現地で、眼をはじめ五感を使って情報を収集し、帰国後、レポートを提出しました。

「プロジェクト」と「レビュー」

グループワークを主とする科目は2年次と3年次に受講することとなっています。現代の課題に挑戦する演習授業のうち、「プロジェクト1」では、LINEからゲストを招き、東西キャンパスをつなぐというテーマで課題に取り組みました。また「プロジェクト2」では、中川運河のものづくり産業ゾーンをフィールドとして選びました。高い技術をもつ工場でものづくり体験をし、繰り返し現地に足を運んで調査しました。学生は、地区の魅力を見つけ、認知度を高め、発展の可能性を探ろうと、それぞれ提案をまとめました。1月30日には、グローバルゲートの名古屋コンベンションホールでパネル展示、プレゼンテーションを公開でおこないました。会場に集まった聴視者からは、たいへんよい反応を得ることができ、好評でした。

「レビュー」は、2年生と3年生が、それまでの授業の成果を中心にパネルなどにまとめ、展示、発表する授業です。展示は、西キャンパスアート&デザインセンターで、8月5日から10日におこなわれました。公開の展示とプレゼンテーションは、学生にとって、良い経験の場です。非常勤講師の方はもちろん、他領域の教員や、外部の方々も足を運び、コメントを残してくれました。

卒業研究にむけたセミナー授業

3年生を対象に、前期「セミナー1」、後期「セミナー2」の必修授業が始まりました。芸術教養領域は、卒業研究として、論文を提出することとしています。それにむけた授業として、3年次より、このセミナーが開かれています。「セミナー1」では、研究の基礎となる「研究のしかた」を身につけることを目標として、テーマの立て方、調査のしかた、文献の探し方、論文を書く手順、論文の構成、論文を執筆するのに必要な文章力、文献の引用のしかたなどを学びました。「セミナー2」では、それをふまえ、考察（ディスカッション）のしかた、文

章にまとめ、口頭でも発表する力を身につけることとしています。

在学生へのチュートリアル

芸術教養領域では、学生の学業や生活を総合的に把握し、的確な指導や助言ができるよう、専任教員四名（茶谷薫、早川知江、津田佳紀、茂登山清文）による個人面談（チュートリアル）を一年間に三回実施しています。今年度も昨年度に引き続き、4月、7月、1月の三回おこないました。授業や学生生活についての感想や悩み、疑問などについて話してもらい、領域がより良い教育の場となることをめざしています。学生たちの率直な意見は、教員にとってもたいへん参考になり、共有しながら役立てています。

学生ができるだけ多くの教員と話ができるよう、複雑なスケジュール調整を担い、また日常的に学生のメンタルなサポートをしてくれたのは、助手の王昊凡さんです。今年度からは、あらたにもう一人、中森信福さんが助手となりました。中森さんは本学サウンドメディアの出身で、サウンドに関する知識と技術は、芸術教養領域にとって貴重です。

後援会の助成による公開講座「リベラルアーツ xX」

三年目となった公開講座は、今年も後援会の助成により、愛知県庁大津橋分室（名古屋市中区丸の内3-4-13）のアートラボあいち、及び名古屋芸術大学で、計4回開催しました。これについては、本号の公開講座「リベラルアーツ xX」をご覧ください。

オープンキャンパス

オープンキャンパスは、主に高校生と受験生、その保護者、高校の先生方を対象とした広報イベントです。2019年度は、7月7日（日）、8月17日（土）の2回、おこなわれました。なお当初予定されていた3月1日は、社会情勢により中止となりました。7月は、「眼で見る詩を描こう」というテーマで、津田が視覚詩を作成するワークショップを、「動物の声からスマホの通知音をつくってみよう」というテーマで、茶谷と非常勤講師の日栄一真氏とが、その楽しさ、科学についてワークショップをおこないました。8月は早川が、絵本をテーマに模擬授業をおこないました。相談ブースでは、在学生も参加し、進学相談にのったり、カフェをふるまったりもし



て、大活躍し、来場者と芸術教養との距離を近づけてくれました。

スクーリングと芸大祭

芸術教養領域では、後期の間、約1カ月に一度、高校と大学をつなぐものとして（高大接続）、入学前教育（スクーリング）を行っています。スクーリングは専任教員がレクチャーやワークショップ、見学引率、チュートリアルを行うもので、一期生入学前の2016年度から実施しています。本年度は、9月21日、12月21日、1月26日、2月22日の4回をおこない、3月28日も予定されています。2月は入学予定者たちを卒業制作展に案内しました。途中、個別チュートリアルもはさみ、卒展全部をまわりきれないほど、みな熱心に作品を見入っていました。

「教養と芸術」研究会

芸術教養領域の社会連携・研究部門として設けられたリベラルアーツ総合研究所では、学際的な視点から様々な方々の研究発表会を2017年度から行っています。第6回研究会は、本領域の助手、王昊凡氏が、「食文化のグローバル化」と題して、学術的な視点もふまえ、発表されました。第7回研究会では、デザイン領域の助手、山口慶伍氏が「無縁仏となった墓の行方とその可能性について」と題して、広範な視点から、現代の墓論を披露されました。

2020年度に向けて

芸術教養領域は、本年度、昨年度にほぼ倍する、30名の入学者を迎えることができました。受験生、入学者が増えることは領域にとってもうれしいことですが、定員25名からすると、学士力、教育の質の保証がやや心配でした。それでも助手、事務補助員、そして多くの非常勤教員のおかげもあって、良い教育環境を保っています。そしてなによりも、活気に満ちた、個性的な領域となっています。一期生は、いよいよ、4年に進学しますが、すでに就職活動を始めています。それにあたっては、特別講義にきていただいた方々から、多くの情報を得ることができ、とても役立っています。大学院への進学を視野に入れている学生もいるのですが、残念ながら、現時点では、本学の大学院には芸術教養の学生がめざす専攻はありませんので、他大学大学院をめざしている次第です。



来年度、芸術教養領域は、完成年度を迎えます。初めての「卒業研究」では、芸術教養の学生が、どのようなテーマのもとに、何を構想し、どうまとめていくのか、人に伝えるべくどんな発表をするのか、楽しみでもあり、私たちの力が問われることにもなります。その発表会、あるいは、名古屋芸大創設50周年事業への領域としての取組みなど、後期には、大きな仕事が続きます。なによりも、再来年度以降の教育のために、カリキュラムをどう充実させ、環境をより良いものとしていくのか、そのために何をすべきなのか、これから一年間、議論していきます。教員スタッフ充実の予定もあり、そのなかで、設立当初の目標からぶれることなく、かつ、現代社会に柔軟に沿いながら、学生教育を一層充実させるべき、努力していきたいと思っています。

芸術教養領域 教授 茂登山清文



人間発達学部

人間発達学部では、新たに2年次でコース制を導入し、実際の授業が今年度スタートしました。将来の目標をもって学ぶ4年間を実現するために、学外の保育園や幼稚園、小学校や児童養護施設などに出かけ、子どもたちと触れ合いながらの生きた授業を展開しました。その主な内容を紹介します。

◇保育・幼児教育コース

附属クリエ幼稚園、にこにこワークショップ、地元保育園の3ヶ所で保育体験を行いました。また、後期には同じく3ヶ所で保育技能成果発表を行ったたり、小学校との接続を踏まえ、近隣の小学校の授業参観に出かけました。



◇学校教育コース

学校で生活する子どもたちの生の姿を知るために、隔週で小学校の授業参観を行いました。また、夏休みの「夜の学校で遊ぼう」や9月の「防災教室」、12月の「もちつき会」の行事に参加しました。



◇発達福祉コース

にこにこワークショップに参加し、乳幼児の発達の理解、親子の関わりを学びました。また、北名古屋市児童発達支援所や児童養護施設に出かけ、ボランティア活動を行ったり「手話講座」に参加しました。



◇子ども芸術コース

クリエ幼稚園や名古屋市立大幸幼稚園に絵本の読み聞かせと演奏に出かけました。「はらぺこあおむし」の読み聞かせにメロディーをつけ歌ったり、ハンドベル楽器演奏をしたりして子どもたちに楽しんでもらいました。



学部行事

(1)おにいさん・おねえさんと遊ぼう

芸大祭の二日目、11月2日(土)に「おにいさん・おねえさんと遊ぼう」の行事にクリエ幼稚園の園児がたくさん集まって、学部の1年生たちと楽しいひと時を過ごしました。



昨年までと違って、子どもたちの声がキャンパス内いっばいに響き渡る賑やかな芸大祭でした。



(2)ホームカミングデー

同じ11月2日を、人間発達学部のホームカミングデーとして卒業生に呼びかけたところ懐かしい顔ぶれが集まり、先生方に近況の報告をしたり、久しぶりの同窓生と旧交を温める良い機会になりました。



(3)子ども大学

今年度初めての試みとして「子ども大学」を開きました。身近に大学があっても、一度も足を踏み入れたことのない子どもたちに、大学生になって普段とは違った授業を受けていただき、名芸大のことを少しでも知ってもらいたいという思いから始めました。

初年度ということもあり、日ごろから学生たちが授業等で大変お世話になっている北名古屋市立師勝北小学校の3年から6年の子供たちに声をかけたところ、24名の児童が入学してくれました。日程は3日間で行いました。

◆第一日：11月2日(土)

入学式

1時間目 「社会」 ハワイの楽しい文化

授業者 ハワイ研修参加学生(1年生)

「ALOHA! この授業では、みなさんに簡単な楽器

やレイ作りを楽しんでいただきます。ハワイで体験したことや訪問した小学校、保育園の様子も紹介いたします。」



2時間目 「家庭科」赤ちゃんのお世話
授業者 吉村美由紀先生 小田良枝先生



「生まれたばかりの赤ちゃんの抱っこのはかたは？お風呂はどうやって入れてあげるの？おむつの替え方は……。赤ちゃんのお世話の疑問について体験しながら、赤ちゃんにとって心地よいお世話の仕方を考えてみましょう。」

3時間目 「体育」弾んで遊ぼうGボール
授業者：堀場みゆき先生

「Gボールという50～60cmほどの大きなボールを使って運動します。いろんな姿勢でバランスをとったり、弾んだり、たくさんのボールをつなげて上を転がったりします。カラフルなボールを見ているだけで楽しい気分。運動が苦手でも楽しく挑戦できます。」



◆第二日：12月21日（土）

1時間目 「理科」楽しい理科工作
授業者：東條文治先生

「工作用紙で簡単に作れるブーメランや、紙皿やストローを使って作る風車で遊びましょう。また、面白い形の紙飛行機なども作って飛ばしたいと思います。」



ハサミやホッチキス、セロテープなどでだれでもつくれる簡単な理科工作です。」

2時間目 「情報」パソコンでゲームを作ろう
授業者：加藤智也先生



「身の周りにはコンピュータがあふれています。コンピュータは人間が作ったプログラムにより動いています。プログラムという難しいイメージがありますが、ちょいちょいとブロックを組み合わせる感じで簡単にコンピュータに指示を出すことができます。パソコンを使ってオリジナルのゲームを作ってみましょう。」

◆第三日：2月1日（土）

卒業式 「春を呼ぶ芸術フェスティバル」

卒業式後の「思い出発表」では、全員から「楽しかった」「また来たい」と言っていたが、私たちも感動しました。



(4)就職支援セミナー

1月11日（土）、本学1号館701教室で、2年、3年の学生を対象に、人間発達学部「就職支援セミナー」を開催しました。

このセミナーは、就職した卒業生や4年生の就職内定者を講師として招き、先輩の就活体験談や後輩へのアドバイス、また現在の職場や仕事の様子など聴き、学生の職業選択や採用試験に向けての取り組みに活かすことが目的です。

全体会では、保育・幼稚園、小学校、社会福祉関係、一般企業・公務員・進学等の分野で活躍してみえる8人の卒業生講師と内定をもらった6人の4年生講師の紹介をし、その後分野別に分かれて、実際の仕事内容や就職活動へのアドバイス等を熱心に話していただきました。

参加した学生たちは、食い入るよ



うに先輩の話に聴き入っていました。その後の質問の時間になると、まだはっきりと進路が定まっていない学生たちから、普段誰にも聞くことができないことまで真剣に質問し、先輩たちからの的確なアドバイスをもらい、最後には心なしすっきりとした表情に変わった様子が印象的でした。

学生のレポートには、「これまで、進路についてあまり真剣に考えることはなかった。今日いろいろな先輩の話聞くことができ、頑張ろうと気合が入った。」「いろいろな経験を積み、視野を広げなければと感じた。どんな経験も無駄なことはないと教えていただいた。」「パソコンの資格を取りたい。やらなくてはいけないことがたくさんあるんだと実感した。」など、自分の将来について考える良いきっかけになったことが伺える感想や決意がたくさん見られました。

(5)春を呼ぶ芸術フェスティバル

例年になく暖かい冬が続く中、2月1日(土)、3年生実行委員が独自に企画運営する「春を呼ぶ芸術フェスティバル」が3号館2階音楽ホールで開催されました。今年には出演者が総勢100名といつも以上に多く、子ども大学の小学生や来年度人間発達学部入学予定者の高校生を含め、およそ150名の観客の中で賑やかな発表会となりました。個人の発表はもちろんのこと、芸術学部の学生と一緒に活動している「吹奏楽クラブ」等のサークル発表に対して、参加者の方々の評価が高く素晴らしい内容のフェスティバルになりました。



(6)汐見稔幸講演会

2020年2月11日(祝)に、本学3号館音楽堂ホールにて、教育学者・汐見稔幸先生(東京大学名誉教授・白梅学園大学名誉学長、日本保育学会長、全国保育士養成協議会会長)をお招きして「今なぜモンテッソーリなのか」と題する講演会を開催しました。この講演会は、本学名誉教授の野原由利子先生の呼びかけにより、人間発達学部・たきこ幼児園・モンテッソーリ協会中部支部・野並保育園の4団体共催で、幼稚園や保育園等の保育者・保育者養成校教員を主対象として企画したもので、参加申し込み者は500名にも及び、当日の会場は満席でした。本学院理事長並びに学長もご臨席くださり盛況に終わることが出来ました。ご協力いただいた方々への感謝を申し上げます。

汐見先生のご専門は、「人間教育学」でとりわけ、子

どもの育ち・その社会環境の変化等問題に教育臨床の立場から長年にわたって研究をされ、今回は特に21世紀型バージョンの教育・保育のあり方を示唆されました。その一部を概要として、以下に記します。

1. 日本の教育の行き詰まりへの警鐘

わが国では、いじめの問題や不登校が蔓延し、若者には対人関係の不安感・消極的姿勢が目立つ、またこの平成30年間でICT系企業のリーダーを生み出せなかった、OECDのPISA調査で読解力がさらに低下した(15位)、SDGsへの取り組みが遅れた国……というように、現在の日本社会は世界で大きく取り残され、種々の教育課題を抱えている。

2. これまでの日本の教育・学校の見直し

日本の教育・学校では、これまで、先生の言うことをよく聞く子、質問に答える子、教科書に書かれていることを覚える勉強、たくさんの知識や答えの導き方を覚える優等生、集団に従う良い子……といった教育観、学習観、優秀観のもとで、子どもは育てられた。その結果、企業従順型の人間や自分の将来の生活の有利のためだけに勉強する自己中心的な人間を生み出し、世界の動向からは大きく取り残されてしまっている。

3. 教育や学校は変わらなければいけない

私達を取り巻く世界には正解はないのが事実であり、真理は一人では見つからない。何のために学ぶのかを、問わなければならない。

オランダではイエナプラン、ドルトンプランなど教師と子どもが対話する教育が取り入れられている。教師はファシリテーターである。モンテッソーリ教育も多い。モンテッソーリ教育には、自分を育てる教育、幼児期に主体性を重んじる原理がある。またノーベル賞受賞者が多いユダヤ人は、幼い時から抽象度の高い文言を重視する教えを受け、答えのない問題提起の下で人生の機敏を問う内容を学んでいる。

これからの教育は、正答主義ではなく、探求と創造の学びが求められる。保育要領では「資質・能力」という言葉で示されたが、それは、個人主義から脱却して「市民」育成の教育観、「仮説」をもって相互に対話する知性と教養の「真理観」、世界のつながりを統合する認識力を育てていくことがめざされる。教師と子どもが丁寧に対話する教育、子どもが主体となる学びが、21世紀社会では必要になってくるのだ。モンテッソーリも幼児教育の段階だけでなく、小学校以降の教育にもその原理を展開していく時代になっている。

以上、汐見先生は、何のために学ぶのか?を問い、そのために教師はどうあるべきかを、2時間に亘り熱心に講演してくださいました参加者の皆様と共に、感謝申し上げます。



学務部報告

名古屋芸術大学後援会の皆様には、日頃から本学の運営、学生支援、国際交流に多大なるご理解とご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、2017年4月に従来の音楽学部、美術学部、デザイン学部を改組・転換し芸術学部芸術学科を設置し、2020年度は4学年が揃う完成年度となります。入学者数については、2017年度が445名の入学定員に対して325名(73.0%)、2018年度が426名(95.7%)、2019年度が523名(117.5%)で、18歳人口の激減期において極めて順調に推移しており、2020年度においても2019年度と同等の入学者数となる見込みです。このことは、各学問領域の壁を払い、ボーダレスなカリキュラムを設定し、領域横断的な学びを実現したことが、社会に浸透し評価を得た結果と感じています。

今回は、完成年度を迎え更なる領域横断的な学びを実現するため、2021年度からの新カリキュラム構想を進めておりますので、その一部をご紹介します。

(1) 副専攻制(ユニット制)の導入

現在のカリキュラムにおいても、美術領域の学生が音楽領域の専門科目を履修する等、他領域の科目を履修することは可能ですし、実際に履修している学生もおります。しかし、せっかく学問的興味と意欲をもって、他領域の専門科目を履修しても、他の学問領域について体系的に学んだとは言えないのではないのでしょうか。そこで、2021年度カリキュラムから、各領域の専門科目に8単位から10単位の体系的な学び(ユニット)を配置し、ユニットを履修した学生には、履修証明書(Certificate)を発行する

プログラムを開始します。各領域には以下のようなユニットがあります。

音楽領域:シンガーソングライターユニット、音楽療法ユニット等

デザイン領域:デザイン基礎ユニット等

芸術教養領域:情報と芸術ユニット、芸術と社会ユニット等

美術領域:絵画技法ユニット、プロジェクト(造形構想)ユニット等

人間発達学部:地域と子どもユニット等

例えば、音楽領域ユニットを選択すると、4年間の学びの中で、「音楽ケアデザイン各論」「音楽ケアデザインワークショップ」「施設実習1」の3科目8単位を履修し、音楽療法について体系的に学ぶことができます。他領域の専門科目を体系的に学び領域横断的な力を身に付けることで、進路選択の幅を広げ、人生100年時代に対応できる人材の養成を狙っています。

(2) 起業を支援する授業科目の設定

起業を志す学生や、フリーランスを希望する学生を支援するために「起業論」「起業実習」「マーケティング」等の授業科目を設定し、それらの科目を履修した学生でコンペを行い、実際に企業を支援する「学内カンパニー制度」の創設を計画しています。

最後に、後援会の皆様への平素からのご支援に対して心からの感謝を申し上げます。今後も皆様のご意見をいただきながら、学務部の運営に努めてまいります。ご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

学務部長 山田芳樹

大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費) について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部 / 芸術学部・人間発達学部) 0568-24-0315(代)	
成績について 証明書発行について 休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	教務学生課		
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		西キャンパス (美術学部・デザイン学部 / 芸術学部) 0568-24-0325(代)
教員免許・学芸員資格について 就職について	キャリアセンター		
交換留学について	国際交流センター(国際交流センター室)		
生涯学習講座について	生涯学習センター(学院広報室)	0568-24-0359(直通)	
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課	東キャンパス 0568-24-5141(直通)	
アート&デザインセンターで開催 する展覧会について	アート&デザインセンター	西キャンパス 0568-24-0325(代表)	
後援会について	事務局(事務局長)	東キャンパス 0568-24-0315(代表)	

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子女の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

2019年度 東キャンパス芸大祭

2019年度の芸大祭は「UP!」をテーマとして開催しました。今年度はテンションUP!スキルUP!などのUPをとって地球環境を考えながら芸大祭を盛り上げようという意味を込めました。

ステージ企画では、各サークルの発表や卒業生を迎えた演奏等見ごたえのあるものばかりになり、皆が参加できるビンゴ大会やサークル対抗企画など、沢山の笑顔が見られるものとなりました。また、音響や照明などステージに関係するスタッフには、エンターテインメントディレクションコースの学生に協力していただき、ステージが晴れやかなものとなったのではないかと感じました。

模擬店では、各サークルや個人の学生が出店し、お客

様も飽きることなく様々な食事を楽しんでいただきました。また、お子様向けの企画として、人間発達学部ゼミの皆様にも協力していただきました。スーパーボールすくいやふわふわドームなど多くの人に楽しんでいただきました。

芸大祭を運営する実行委員会は、昨年よりさらに少ない人数で準備をすることになり、それぞれにかかる負担が多い中やり遂げることが出来ました。ボランティアで手伝っていただいた方や教職員の皆様、ご協賛いただいた地域の方々には感謝を申し上げるとともに、次回の芸大祭をさらに有意義なものになるよう努めていきたいと思

東キャンパス 芸大祭実行委員長 岩田日花里



2019年度 西キャンパス芸大祭

2019年度の芸大祭は「戯-アジャラ」というテーマにより開催されました。この「アジャラ」には、この一年に一度しかないイベントで一生に一度しかないこの出会いの中で、よく遊び、ふざけながら、学生全体で戯るという願いを込めてこのテーマに決定しました。

11月1日、2日の二日間で開催された芸大祭ですが、今年はこの数年間で一番の天気恵まれスケジュール変更もなく、無事に芸大祭を終えることができました。外来イベントによりたくさんのお客様が出店場所に足を運んでいただきました。

長く続いているこの芸大祭。より良くなるように努め邁進できるのは、学生や教職員の皆様はもちろんのこと、地域の方々の力があってこそだと思います。

改めて関わっていただいた皆様に感謝を申し上げるとともに、これからもより良い芸大祭を作っていくことに努めていきます。

西キャンパス 芸大祭実行委員長 伊藤誠



皆さん受賞おめでとうございます!

2019年度の本学在學生（学部及び大学院生）や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果を報告します。学外のイベントでの受賞者については、本人および教員を通じて広報企画部に報告があった内容を掲載しています。

音楽学部、芸術学部 音楽領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
2019年						
8月31日	第2回日本奏楽コンクール	日本奏楽コンクール審査委員会	弦楽器部門大学の部 審査員奨励賞	コントラバス	4年	朽名 杏樹
10月20日	第71回福井県音楽コンクール	福井県音楽コンクール運営委員会	ハープ部門 福井県知事賞	ハープ	2007年度卒	高田 知子
10月20日	第25回みえ音楽コンクール	三重県文化会館	フルート部門 一般の部A 第1位	フルート	2012年度卒	小崎 杏那

美術学部、芸術学部 美術領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2019年						
6月5日 ～ 6月20日	アートアワードトーキョー2019	アートアワードトーキョー丸の内2019実行委員会	作品 ノミネート	美術研究科 同時代表現研究	ガラスコース修了	深川 瑞恵
			作品 ノミネート	美術研究科 同時代表現研究	洋画2コース修了	藤原 葵
11月8日 ～ 11月24日	第14回 CBC翔け! 二十歳の記憶展	CBCテレビ CBCラジオ	グランプリ	4年	美術領域アート クリエイターコース	星野 夏実
			名古屋市 教育委員会賞	4年	美術領域アート クリエイターコース	杉浦 綾

デザイン学部、芸術学部 デザイン領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2019年						
11月26日	第6回東京装画賞	日本図書設計家協会 東京装画賞実行委員会	金賞	3年	デザイン領域 イラストレーションコース	酒井 美和
			=審査員賞= 大久保明子賞	3年	デザイン領域 イラストレーションコース	酒井 美和
			=協賛企業賞= 平和紙業賞	3年	デザイン領域 イラストレーションコース	杉浦 芽生
			=入選= 平和紙業賞	3年	デザイン領域 イラストレーションコース	杉浦 芽生
			=入選= 平和紙業賞	3年	デザイン領域 イラストレーションコース	酒井 美和
			=入選= 平和紙業賞	3年	デザイン領域 イラストレーションコース	篠田 司
			=入選= 平和紙業賞	2年	デザイン領域 イラストレーションコース	田中 嵩人
			=入選= 平和紙業賞	3年	デザイン領域 イラストレーションコース	山下みのり

国際交流事業について 全学組織を挙げた国際化推進

国際交流センターでは、全学組織を挙げた国際化推進を掲げ、これまで部署間連携による多様な取り組みを行なって参りました。その結果もあり、本学の国際的環境はここ数年で大きく変化してきました。

広報企画部・入試広報課との連携で、外国人・帰国子女の志願者が受験しやすい入試プロセスが導入されたことにより、来年度より正規留学生数の一層の増加が見込まれています。こうした背景のもと、国際交流センターでは留学生等に対する、よりの確な在留資格管理体制を構築し、今年度には名古屋出入国在留管理局より在留管理に特段の問題がないと認められる「認定校」として選定されました。留学生の増加は在留資格管理体制だけでなく、学習や生活支援、就職サポートまで一貫した対応が必要となってくることから、今後、全学組織を挙げた支援の充実がより一層の重要性を増してきます。

また、学术交流協定校であるデンバー大学国際室及び附属語学学校（米国コロラド州）と共同実施してきた、全学部学科の学生を対象とした合同

語学研修プログラムに加え、学務部との連携により、今年度よりベルリッツの講師が常駐し全ての学生が英語でのコミュニケーションをはかれる環境が整えられるなど、本学学生の英語力強化のためのプログラムも充実してきました。また日本学生支援機構「海外留学支援制度」に採択され、交換留学の費用補助が可能となったことも追い風となり、次年度は10名を超える学生が交換留学生として提携校で学ぶ見込みとなりました。

同時に、この数年間でアジア諸国、ヨーロッパ、アメリカをはじめとした海外の有力校との学術交流提携を新規開拓・更新してきたことにより国際的共同研究をさらに進める素地も整ってきました。

国際交流は、教育研究、学生サポート、学生募集、ひいてはブランド力構築につながる、大学全体の強みや独自性の創出と直結してきます。これからも全学組織を挙げた国際化を一層推進していく必要があります。

国際交流センター長 水内智英



2019年度ブライトン大学賞授与式

2020年2月28日(金)、本学西キャンパスB棟2階大講義室において、「第47回名古屋芸術大学卒業制作展優秀賞 第23回ブライトン大学賞授与式」を開催いたしました。今年度は初の本学卒業制作展優秀賞との合同開催となった関係もあり、例年よりも多くの方々にお越しいただき、大変盛況な授与式となりました。Dr. Caterina Radvan (美術学部ファッション&テキスタイルコース プログラムリーダー)、Mr. Jeremy Radvan (美術学部イラストレーションコース上級講師) のお二方が、審査員およびプレゼンターとしてブライトン大学よりお越しになりました。2月26日(水) に行った作品審査では、コンセプトや技法などについて学生に質問をされながら、ノミネート作品を一つひとつ丁寧に見て



授与式

まわられました。授与式当日は、水内智 英国国際交流センター長の挨拶で始まり、Dr. Caterina Radvan よりグランプリ1名、優秀賞1名、奨励賞2名、佳作



6名の計10名の受賞者の発表があり、合わせて各作品について講評をいただきました。

例年は授与式の後に祝賀会を行い、親交を深めておりましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、今回は急遽中止とさせていただきます。

水内国際交流センター長も始まりの挨拶で触れておりましたが、本学にとってブライトン大学は非常に重要な提携校の一つであり、現在までとても良好な関係が続いております。今後もこの良好な関係が続き、より活発な交流が行われることが期待されます。

2019年度ブライトン大学賞受賞作品

受賞種	学部	コース	氏名	作品名
グランプリ	デザイン	スペースデザイン	伊藤 航大	継手家具・婆娑羅(ばさら)
優秀賞	美術	アートクリエイターブロック コミュニケーションアート	中村 大樹	プロポーズ
奨励賞	デザイン	デザインマネジメント	大北 貴志	川水紙
	デザイン	メディアデザイン	諸星志づく	空間
佳作	デザイン	ヴィジュアルデザイン	渡邊 結機	あのひのたんぼみち
	デザイン	カーデザイン	大塚優太郎	MOBI LABO
	デザイン	デザインマネジメント	川地 真由	🎬👤👤👤👤
	デザイン	メディアデザイン	所 香菜子	①originality ②ALEK(自動照明電子ピアノ) ※2作品展示
	美術	洋画 1・2	浅野 克海	では、あなたは人間ですか？
美術	アートクリエイターブロック コミュニケーションアート	杉浦 綾	daydream believer	



グランプリ作品



授与式



審査風景

第30回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座(報告)

本学生涯学習大学公開講座は今年で30回目を迎え、東西キャンパス合わせて21講座を開講しました。昨年度まで引き続き実施してきた水彩画、陶芸、木彫、オカリナ、イラストレーターなどの講座に加え、テンペラ画や墨彩画、金管楽器などの新たな講座を開講し、多くの方々に受講していただきました。

また、名古屋市生涯学習推進センター主催の「シリーズ講座」では「大学の知を学ぶ『地域と共にデザインする～多様なステイクホルダーと共に地域コミュニティをデザインする～』」を開講し、大好評のうちに終了することができました。

今後も幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設に努めてまいります。2020年度の講座につきましては、6月末頃にご案内できる予定です。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

【お問い合わせ先】

名古屋芸術大学生涯学習センター
☎0568-24-0359



▲ 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座
第30回 生涯学習大学公開講座
は 2019年9月～12月 開催予定。東西キャンパス

2019年度 名古屋芸術大学生涯学習大学公開講座

キャンパス	講座コード	講座名	受講者数
東	M-01	健康な声をつくるヴォイス・コンディショニング	5
	M-02	しなやかなカラダをつくるストレッチング&呼吸法	8
	M-04	金管楽器の奏法基礎と指導法	5
	M-05	はじめてのオカリナ～オカリナで奏でる心の歌～	9
	M-06	みんなでチャレンジ! 楽しいオカリナアンサンブル	13
	M-07	美しい日本語の話し方教室～声と言葉を磨いて、印象アップ!～	13
	M-08	みんなで楽しむ朗読のせかい!～宮沢賢治を読む～	5
	H-02	天体望遠鏡を作ろう	12
	H-03	ティラノサウルスの歯の化石の石膏模型を作ろう	10
	H-04	モンテッソーリ教育に学ぶ ～バーチャル・リアリティ(仮想現実)に負けない子育てを～	20
西	B-01	美しい水彩画X 一爽秋の林、野辺、果実、秋を描く	23
	B-02	基礎から学べる陶芸講座	9
	B-03	木彫を楽しむ partXXI	9
	B-06	テンペラ画入門	5
	B-07	色鮮やかなガラスの世界～パート・ド・ヴェール～	8
	B-08	初心者のための優しい墨彩画	9
	D-01	基礎の基礎! イラストレーターとフォトショップ	5
	D-02	小説家になるための小説創作講座	15
	D-03	鑄造で創るメダル講座	8
	D-04	構造をほんの少し理解し、シンプルな道具で作る家具	7
	D-05	こども造形と形遊び 「和久洋三が提唱する(和久メソッド)創造共育」 幼児・小学生	8
合計21講座			206

2019年度 名古屋市シリーズ講座

日程	講座名	受講者数
8/22	大学の知を学ぶ 「地域と共にデザインする」 ～多様なステイクホルダーと共に 地域コミュニティをデザインする～	51



オカリナ



こども造形と形遊び



みんなで楽しむ朗読の世界 (まほろば遊)



金管楽器の奏法基礎と指導法



脱線しても気にしない日本講座



美しい水彩画X

後援会補助公開講座実施報告

音楽領域

今年度は4件の公開講座及び特別講座を開催させて頂きました。

- ・2019年11月7日・12月5日 「民族音楽が秘める可能性と未来」
- ・2019年11月20日 「ギターのアート～表現の可能性をめぐって～」

- ・2020年1月6日 「ニューイヤーコンサート」
 - ・2020年1月9日 「マイクロホンワークショップ」
- どの公開講座も大盛況で、学生にとって非常に充実した講座となりました。来年度も魅力ある講座を開催予定ですので、引き続き宜しくお願い致します。

音楽領域主任 依田 嘉明

芸術教養領域

「リベラルアーツ x X」

三年目となった芸術教養領域の公開講座「リベラルアーツ xX」、今年度は、愛知県庁大津橋分室（名古屋市中区丸の内 3-4-13）のアートラボあいち、及び名古屋芸術大学で、計4回開催しました。

第7回（一年目よりの通番です）は、5月11日に、本学西キャンパス B 棟大講義室で、アニメプロデューサー、植田益朗氏におこしいたしました。植田氏は、『機動戦士ガンダム III めぐりあい宇宙編』『銀河漂流バイファム』『シティーハンター』『黒執事』『あの日見た花の名前を僕たちはまだ知らない』『ソードアート・オンライン』『犬夜叉』など、アニメ業界で数々のヒット作を手がけられています。「未来のリハーサル アニメを企画・プロデュースすること 世界的デザイナー シド・ミードとの邂逅」と題した講演には、学外からも多くの来場者が足を運んでくれました。折りから、プロデューサーも務められている、『シド・ミード展 PROGRESSIONS TYO 2019』についても、興味深いお話をいただきました。

第8回は、6月30日にアートラボあいちで、陸前高田を拠点に活動するお二人のアーティスト、小森はるか氏と瀬尾夏美氏を招き、8年目の陸前高田で聞く・語る・伝える「二重のまち／交代地のうたを編む」のテーマでおこないました。司会は、リベラルアーツ総合研究所の研究者でもある水谷仁美氏にお願いしました。あたらしいまちの姿が見え始め、かつてのまちの面影が徐々に遠ざかりつつある2018年9月の陸前高田、小森さんと瀬尾さんは同地で、まちの人たちと遠くの土地からやってきた若い旅人が出会い、対話を重ね、風景を共有するための仮設的な場をつくるプロジェクト「二重のまち／交

交代地のうたを編む」をおこなっています。今回は、東北で記録活動に取り組むアーティストと多様な人びととの協働の場について語っていただきました。

第9回は、12月13日に東キャンパス11号館で、ソニーマーケティングビジネスソリューション本部、統括部長の内藤友宏氏に、「教養がもたらす新規事業のヒント」と題して講演いただきました。職業にとって教養が、いかに役立つのか、芸術教養にとってたいへん興味のある実例を、仕事の現場からお話ししていただきました。

第10回では、1月26日にアートラボあいちで、国際日本文化研究センター 教授の坪井秀人氏に「教養のたそがれと人文知——〈終焉〉後の文学そしてグローバル・ヒストリー——」の題目で講演いただきました。坪井氏は、以前に金沢美術工芸大学で教えられた経歴をもち、また自身がオーケストラでフルートを演奏されるなど、美術と音楽にもたいへん深い造詣をおもちです。今回は、20世紀末葉に進められた大学改革、そしてネット社会の加速度的な浸透が、将来的ヴィジョンを見えにくくさせている。一方で世紀をまたぐこの30年において人文学は失ったものも大きかったが、新たな可能性も獲得してきたという。そんな新たな動向をグローバル・ヒストリーと世界文学からお話しいただきました。また講演の後に、音楽学部三年に在籍する橘川宗明君によるアコーディオン演奏があり、参加者は飲物を手に、音楽を楽しみました。

末尾になりますが、公開講座開催にあたり、名古屋芸術大学・大学院後援会よりの助成に感謝しております。

芸術教養領域 教授 茂登山清文



人間発達学部

人間発達学部では、2019年9月21日(土)に、名古屋芸術大学東キャンパス3号館ホールにて、特定非営利活動法人つばさ吃音相談室理事長の羽佐田竜二氏を講師にお招きして、特別公開講座を開催した。



羽佐田 竜二先生

講師の羽佐田先生からは、「吃音のある子どもの理解と支援」をテーマに、吃音の人の苦悩を軽減するために何が大切かを中心に話があった。

○吃音について

吃音には三つの症状がある。中核症状といわれる『連発』『伸発』『難発』である。この症状が一つ以上認められるものを吃音という。『連発』とは「ぼ、ぼ、僕たち」のように言葉をくり返すものである。いわゆる『どもる』といわれる症状である。『伸発』とは「きーのうね」のように、声の最初が伸びる症状である。『難発』は力が入って詰まって、声が出づら症状である。ひどくなると完全に声が出なくなる。

○二次的症狀について

工夫ともいう。普通に話ができないことを普通に話しているように見せようとすることである。言葉が詰まって空白になってしまい言えない言葉がある。その言葉の前に「えーっと、なんだっけ。それだ、ああ、〇〇〇です」と空白が無いように見せることを「語の挿入」という。「お茶」とは言えないときは、言いやすい「飲み物」と言うことがある。「言い換え」である。他にも「回避」や「逃避」「中止」といって、そもそも話をしないように、話す場面を避けることがある。挨拶をするのではなくお辞儀だけをするとか、話そうとしても話せないので話すことをやめて「分からない」と表現するなどである。

○吃音になる原因について

現在のところ詳しい原因は特定されていない。複数の要因が関係しあって発症するのではないかとされている。7割が体質であると言われ、残りの3割についてはよくわからない。少なくとも、母親の育て方が悪かったので吃音になったと考える必要はない。

○自然治癒について

7、8割の人が自然治癒する。初吃3年以内に消失するものが多いといわれる。自然治癒した子供の特徴は次のとおりである。①親族に吃音の人が一人もいない。いても、吃音が回復していた。②初吃音年齢が低年齢である。③韻音、ならびに他の言語スキルが高い。④非言語系の知能検査の得点が高い。⑤女兒である。

○支援の必要性

自分で症状を自覚している子は2歳で5割、5歳で8割である。周囲の子からの指摘、まね、笑いを経験した子は、3歳で2割、5歳で7割である。小学校入学までには、大半の子が周囲の反応を経験している。社会生活を営めば自分自身が吃音を意識しないことは無理である。吃音が人生に与える影響は次のようなことが挙げられる。①からかい、いじめ②不登校、中退③就職・就業④結婚。そこで、意識の仕方を考えていく、接し方を一緒に考えていく支援が必要になる。

○支援の方法

「吃音緩和法」は、より軽い吃音に形を変えることはできないかという発想から生まれた訓練の総称である。流暢性計製法、リッカムプログラム、RASSなどのアプローチがある。

様々なアプローチを試みてもうまくいかない場合は、発話の免除、話をしなくてもいいと言ってあげるアプローチがあっても良いのではないのだろうか。言葉の症状を直接的に変えなくても、何かトレーニングをしなくても、場合によっては本人の苦痛を減らすことができるアイデア、対応がある。吃音のために数多くのリスクも環境面、つまり周囲がその子に対してどう反応するかを変えることによって、軽減できたものは本当にたくさんある。特に、幼少期から学生のうちは支援できることはとても多い。吃音の人の苦悩を軽減するには、周囲の支援が絶対に必要である。

講演会の参加者は、一般の方が80名、学生が122名であった。講演後の意見や感想に、「講演の中にあつた『症状、周囲の反応、本人の反応の3つの軸を可能な限り縮める』というのは、吃音に限らず、様々な問題解決に役立つと思った。」(学生)「今担任をしている子で吃音がある子がいるのですが、その子は話すことが好きで、よく話をしています。話しづらそうにしていることは多々あるのですが、その子の話をこれからも、ゆっくり聞いていきたいと思います。」(一般)

人間発達学部 准教授 久保博満

親の想い

芸術学部 芸術学科 美術領域 日本画コース 2年 父 橋本博文

「我が子の成長と名古屋芸術大学」

今からおよそ2年ほど前、我が子は名古屋芸術大学に入学しました。高校時代は進学校で絞られ、あまり学生生活が楽しそうでなかったです。それが我が子が名古屋芸術大学に入学してから生き生きとし始めたのです。名古屋芸術大学の生徒に対するケアは素晴らしいものでした。まず魚太郎に生徒を連れていき、生徒及び先生との交流を深めてくれました。その次は生徒を掛川の花鳥園に連れていきクロッキーをさせたりしました。クロッキーとはデッサンよりも遥に早いスピードで鳥などを描くことだそうですね。息子にその時初めて教えられました。その後我が子は大学の授業で憲法を本格的に勉強しました。憲法は知識偏重型ではなく、思考が試されるものでした。例えば「参議院が必要とされる理由は何か」などです。このようなことを真剣に考え我が子は日に日に成長していきました。また子供と一緒にいるいるな憲法の問題を考えたことは親子にとってかけがえのない時間

であり、忘れがたき良き思い出です。この憲法は特に柔軟な思考が試されるものであり、教員になると否とにかかわらず、社会に出て間違いなく役に立つものでした。そしてこのような経験を積むことによって、我が子が日に日に成長することが分かりました。本当にありがたいことです。更に2年生になってから、新たな試みがありました。それは芸大祭への作品出展です。何と作品を名古屋芸術大学の学生が買値をつけて出展するのです。わが子も一生懸命作品を作りました。わが子が作ったのは何と鳥獣戯画のパロディーです。数多くの蛙が本当に皆ユニークな姿で描かれてました。芸大祭で、買い手こそつきませんでした。素晴らしい経験になりました。このようなケアのある名古屋芸術大学は素晴らしく、また我が子が明るく楽しく成長していくのを見るのは素晴らしいことです。この名古屋芸術大学でのいるんな経験をもとに、我が子のさらなる成長を願って止みません。

デザイン学部 デザイン学科

メディアコミュニケーションデザインコース 4年 母 伊藤文字

「門出」

娘が名芸デザイン科に入学して早4年、あっという間だった気がします。

芸術大学ならではの授業を楽しみ、時には悩み苦しみながら課題をこなしていく様子を近くで見守ることができたのは、親としてもとても楽しかったです。

そして、学芸員の資格を取ったり、インターンシップでデザイン会社の体験をしていたので、就職活動も順調に終えてくれたら…と想着ていましたが、娘の希望する仕事は、私から見たら厳しいものでした。

業務委託の制作で出来高収入の職種です。自宅から通える範囲にもありません。社会保険のある正社員として安定して欲しいと願う私と、希望する仕事の内定を東京や大阪などで得ようとする娘とのギャップのある日々が続きました。

そんな時に起きたのが「京都アニメーションの放火事件」でした。私にとっては無差別殺人などと同様、テレビの中の別世界の悲惨な事件でしたが、娘は違っていました。

「この人達は、やりたい仕事を頑張っただけなのに、こんな風にクリエイターが死んでしまうなんて!!」とニュースを観る度、涙を流していたのです。

ああ、もう娘はクリエイター側の人なのだ実感しま

した。やりたい仕事に向かって突き進もうとする娘に、私は過保護に反対して邪魔をしていたのかもしれない、気持ちよく応援してあげるべきなのに、と思うようになりました。

その後、東京で内定を頂き、卒業制作も頑張りながら、春からのボンビーガール生活に向けて、ギリギリまでアルバイトをして生活費を貯めている娘。

仕送りはしないからねと言いつつも、きっと娘の好きなものをいろいろ詰めて私は故郷便を送るのだろうかと、急な子離れは出来そうにない自分に甘い母親です。



子の想い

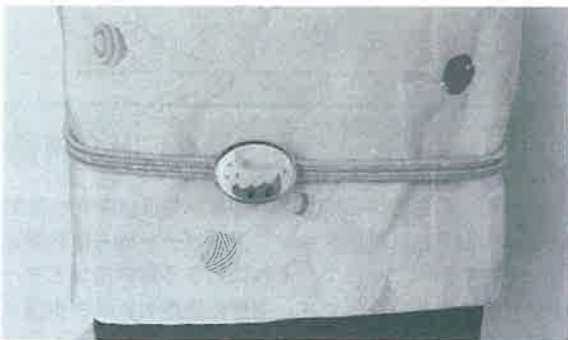
デザイン学部 デザイン学科
メタルアンドジュエリーコース 3年 池野 華

なんでも好きにできるようになった年齢って実際何をやればいいのかわからなかったりする。

私は大学に入って今までよりも何やってもいいんだよと言われてそう感じる事が多くなった。この文章を読むのが今の大学生なのか、大人しか読んでないのかはわからないけれど、同じ大学生が見るなら、あ〜そういう意見もあるのか〜ぐらいに読んで欲しいのだけど。

私は中学に入った時(芸術とは関係がない)に選ばれて入ったんだと言われて。その言葉は私の中で思い入れがあったのか中高にいる間、何かしらでふと選ばれたのか〜と思った。自分は心が不安定なところがあるから周りも同じ選ばれたと思えることでそれも和らいでいた気がする。

しかしこの大学に入ってから何してもいいよと言われて何をしたいかがよくわからなくなってしまった時期があった。課題一つにしても好きなものでいいよなんでもいいよって言われて、なんでもいいって何がいいの?と



か好きなものを自分の思い通りに達成させられるの?とか思った。結局できない自分が無理しても出来ない、で結論が一回出てしまった。

その時に気付いたのが、自分は多分選ばれて入ったんじゃないって事だった。芸術系大学は他と違って大卒資格いるから入るみたいなものじゃない。自分が何かしたいという目的があって入らなきゃこんなところ入らないと思う。周りはやめてく人もいるしコース次第によっては就活に繋がらない人だっていると思うし。でもそれこそ選んだんだって気付く。自分でやりたい事選ばなきゃ多分出来ないんだ、そう思い始めてからは課題や制作の時には音楽でも色でも素材でも、選んだものが完成品の



中に入り込んでくることを意識して作業するようになった。そしてまた完成品のなかから一番いいなと思ったものを選ぶ。多分それには愛着がわく。選ぶって糧で、「なんでも」をする時に難しくしない方法だと思っている。

芸術学部 芸術学科 美術領域 日本画コース 3年 柏木海歩

「絵を描くということ」

絵を描き始めて、そろそろ20年。幼・小・中・高・大と、絵を描くことがとても楽しく至上の喜びでした。しかし、大学3年になり、絵を描くことがひどく苦しくなってきました。

大学の日本画実技では、1年間に何作も描きます。授業時間内で完成することは無く、授業後に大学や自宅で描くことになります。時には、朝までの徹夜になります。

絵筆をとって描き出すまでは、相当悩みます。何を描くのか、絵の構成配置はどうするのか、何をテーマとするのか、岩絵の具の色づかいはどうするのか。くる日もくる日も悩み続けます。苦しさの中で、第1案・第2案・第3案とイメージが、ようやく出てきます。どの案にするか決断するまでに悩み続け、疲れます。しかし、どうしても決断しなければなりません。

ようやく決断し描き始めると、途中で迷いが生じてき

ます。第1案より第2案の方が、良かったのではないかと後悔したりします。そんな時、誰れか話し相手が欲しくなってきます。私の身近には、父がいます。父は、「自分は全くの素人だ」と断った上で、簡潔に意見を言ってくれます。父によって、私は少しは救われています。一方で、大学3年になって、ようやく大学の先生に質問や相談ができるようになってきました。

前々から、私は、横山大観の絵を展示する足立美術館(鳥根県)やルーブル美術館(フランス)に行きたいと思っています。未だ、日程上の都合や予算面で実現していません。

芸術上の悩みや苦しみの多い私ですが、今後、どうなっていくのか未だ展望は見出せません。『芸術は長く、人生は短い』のでしょうか。

私 が 就 職 内 定 を も ら う ま で

音楽学部 演奏学科 弦管打コース
4年 豊永 洋吉

私は卒業後の進路について具体的な夢を持って大学生生活を過ごしていたわけではなく、教職の講義も免許を取るためだけに履修していました。三年生になっても将来を思い描けない自分自身に少し焦る気持ちもちろん感じていましたが、それでもなかなか周りのように就職活動を頑張ろうとも思えませんでした。

しかし、教職の模擬授業を経験すると教育現場を具体的に想像しなければいけない場面が多く、このタイミングで一気に教職を現実的に感じるようになり、将来の選択の一つとして考えても良いかもしれないと思い始めました。四年生の時に教育実習を経験すると、クラスに合わせた授業を組み立てることや音楽に興味のない生徒を振り向かせることの難しさ、そして日々の生徒指導の大変さを痛感すると共にやりがいを感じました。

実習が終わる頃にもまだ就職活動を始めていなかった私は本気で教職を目指してみようと考え、教育実習終了後から教職の先生方の講義を改めて受けたり、試験や面接の対策をするために積極的に助言を頂きに研究室へ伺ったりしていました。

私は決断が遅く準備期間がとても短かったので筆記も実技も面接も終始試験は不安でした。試験を受けて感じたことは普段の講義の重要さです。特別な対策の必要が無いとは言いませんが、私自身は普段から興味を持って先生方の講義を聞いていたことがこうして結果に繋がりました。

面接は筆記試験のように正解はありませんし回答を事前に用意していくことが難しいので、普段からよく考えて発言することを癖づけることが大切だと感じています。即答することが重要な場面もあると思いますが、自身の考えをしっかりとって日々の生活を送ることがこうした面接の場面では役立つのではないかと思います。

今は必要と感じていない事柄や経験がいつ役立つかは予想できることではないので、是非様々な事に興味を持って取り組んでみてください。

(愛知県公立学校 高等学校教諭 内定)



人間発達学部 子ども発達学科
4年 五藤 未来

私は幼い頃から子どもに関わる仕事に将来就きたいと考えていました。

名古屋芸術大学の人間発達学部に入學してからは保育実習や授業を通じて保育者になるために積極的に学習や実技に励みました。

就職を考える時期になると自分はどんな保育者になりたいか、どんな機関で働きたいかを考えるようになり、公立保育園の公務員試験の勉強をしたり、先生にお願いして面接の練習にも付き合ってくださいました。私立の幼稚園も視野に入れ、園それぞれの特徴を知るために私立幼稚園の就職説明会にも参加しました。

子どもに関わる仕事ならと小規模保育施設や一般の子ども関係の職にも見学に向かいましたが、話を聞いた上でやはり私は園の保育者として子どもと関わっていききたいのだと再認識し、意志を改めて固めました。

そんな時に大学の先生から子ども園の話聞き、その説明会に伺いました。説明会での保育者の先生たちの話やこの園をこれからどんな園にしていきたいかなどを聞くにつれて私はここで働きたいと強く思いました。

園の採用試験を受けるに当たってピアノ曲や面接練習、絵本の読み聞かせなどを練習しました。特にピアノは得意ではなかったため友人や家族にもアドバイスをいただきながら毎日練習を繰り返し、その努力が実ってか

園に内定をいただきました。

私が考える名古屋芸術大学の強みは生徒自身が一生懸命物事に当たれば先生やキャリアサポートの方は親身になって話を聞いてくれて、それに対する解決策などを一緒に考えてくれることです。実際に沢山の人にお世話になり、考える幅も広くなりました。

ですが最後に決めるのはその人自身です。様々な選択肢を加味した上でみなさんが「ここで自分の力を思う存分発揮して頑張っていきたい」と強く思えるような職場に出会えるよう願っています。

(社会福祉法人 NUA 認定こども園 森のくまっこ 内定)



自分の作品に自信を持って

美術学部 美術学科

アートクリエイターコース 4年 伊東 沙羅

私は高校では普通科を卒業し、美術について本格的に学びたいからと現在の美術学科を選択しました。

大学入学当初、幼い頃から絵を描く事が好きだった事もあり、今後はその延長線上にある仕事に携われたいいなあとぼんやりとっていました。

なぜ私が自分のコースと一見関係ないように見える会社、ゲーム企業を選択したかと言うと、美術の自主制作は自身の為の制作であると思っており、今後は誰かの為になる制作、仕事がしたいと制作していて強く感じたからという理由もありますが、ゲーム制作にデザイン的な魅力を感じたからです。

そして3年生の4月頃、この頃に本格的に就職を意識して活動し始めました。最初はゲームのジャンル問わず様々な企業を視野に入れていましたが、このゲームを制作したデザイナーの方達と仕事をしたいと強く思った企業があったので、エントリーするまでの間、出来る限り自分をアピールしようと思いで地方で開催される会社説明会に積極的に参加し何度もお話を頂きました。私は授業内で立体作品や工芸品を制作していましたが、ゲーム企業はデジタル作品が色濃く、圧倒的に自主制作

の作品が少なかったので3年生の夏休み、春休み、その他時間を作って自宅に籠り主にその企業を意識した画風のイラストやキャラクターを制作していました。

やはり美術学科はデザイン学科と違いPCを用いた授業も少なく基本的なスキルの差を明確に感じ、主にポートフォリオを用いた自身の作品の見せ方に苦労したので、様々な人に見て頂く機会を作り、無事納得のいく内定を頂くことが出来ました。

これから就職活動をされる方にはまだ様々な道があり、何をしても初めての事ばかり、分からない事ばかりで不安だと思います。そんな時は自分に合った先生、またキャリアサポート室の方々に相談しに行ったり頼ったりして下さい。

周りとは比べ過ぎず、自分の作品に自信を持って就職活動頑張ってください。

(I-UP スタジオ株式会社 内定)



精神的に成長

デザイン学部 デザイン学科

スペースデザインコース 4年 鬼頭 昌大

私は卒業後、株式会社スペースという空間デザインの会社に勤めさせていただくことになりました。大学では建築や家具、インテリアの勉強を主に専攻していたため、空間を作るということには興味がありました。

学生の頃から、人と協力して何かを完成させることが好きでした。中でも自分の転機となったイベントが、名古屋大学主催の「TEDxN Nagoya U」です。

私は舞台空間デザインと、当日準備の現場指示、使うアイテム制作を担当しました。この「TEDx Nagoya U」は自分自身にとって、デザインに対する考え方が変わったイベントとなりました。今までは、自分で考えたものを自分で判断し、完成し、発表する単独での制作がほとんどでした。しかし、自分とは違う分野や考え方を持つ人たちと話し合い、一つのイベントを完成させることは、新鮮な喜びで、自分の役割への責任感を強く感じました。このようなことから私は空間デザイン業界を目指すようになりました。

しかし、初めからその業界を私は目指していたわけではありませんでした。就活を意識し出したのは大学3年の夏頃からでした。別大学の先輩が大手メーカーに入社したことから、勧められインターンに応募しました。そのために初めてポートフォリオを作りました。定員がわ

ずかな選考を抜け、見事インターンに参加することができました。

そこから、名の知れた大手ばかりを春ごころは受け続けました。しかし春の選考ではことごとく全部落ちました。そこで、ES やポートフォリオをブラッシュアップし、自分はこれから何がしたいのか、自分とは何かを徹底的に分析しました。そこからは自分は空間デザインの業界でステップアップがしたいと思い、今回内定いただいた企業の他にも、スタートアップ系から大手空間ディスプレイ企業まで様々な会社を受けました。

数々の実技試験やプレゼン、面接、グループディスカッションをおこなって行く中で、より自分がしたいことや、改善すべき点が透明化していきました。

今、卒業を迎える中で、就職活動は自分を見つめ直すきっかけや、周囲への感謝の気持ちが大きく芽生え、精神的にも遥かに成長させてくれるものでした。

(株式会社スペース 内定)



名古屋芸術大学音楽学部 第47回卒業演奏会

今年度開催予定の47回卒業演奏会ですが、新型コロナウイルスの拡大防止の措置により、公演を見送る事となりました。この演奏会の為に準備をしていた学生の皆さんには本当に申し訳ない決断でしたが、昨今の状況を鑑みての苦渋の選択となりました。今後の対応については、代替日も含め政府の見解を見つつ決定したいと思います。宜しくご理解承りたく思います。

音楽領域主任 依田嘉明

名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第22回修了演奏会

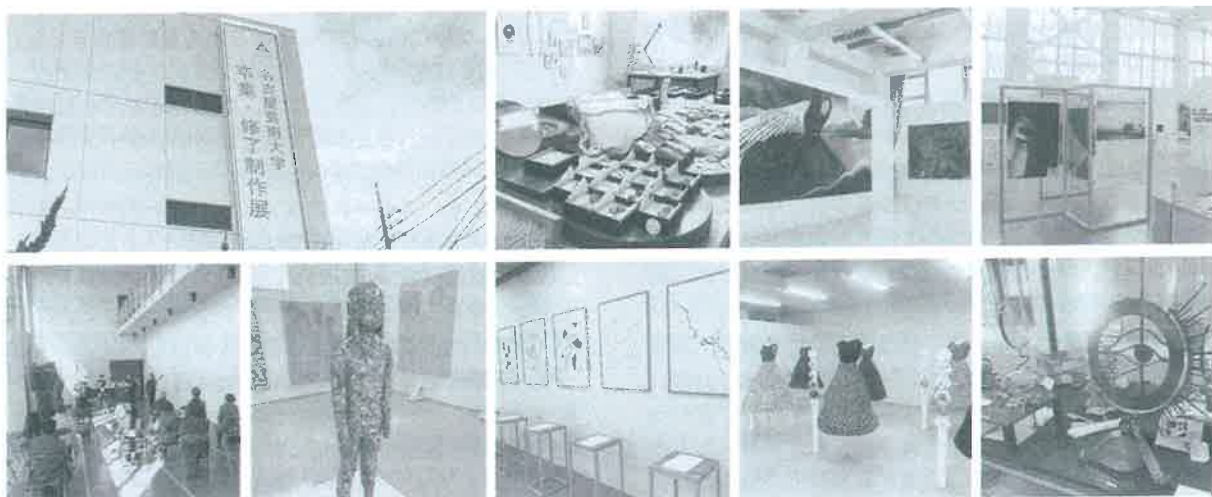
今年度開催予定の22回大学院修了演奏会ですが、新型コロナウイルスの拡大防止の措置により、公演を見送る事となりました。この演奏会の為に準備をしていた学生の皆さんには本当に申し訳ない決断でしたが、昨今の状況を鑑みての苦渋の選択となりました。今後の対応については、代替日の開催も含め、政府の見解を見つつ決定したいと思います。宜しくご理解承りたく思います。

音楽研究科長 依田嘉明

名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部 第47回卒業制作展

第47回名古屋芸術大学卒業・修了制作展を2020年2月21日(金)～3月1日(日)の10日間の日程で本学西キャンパスを会場に開催致しました。まずはじめに本年度開催にあたりまして後援会から手厚いご支援を頂きましたことに深く御礼申し上げます。

さて、今年度の開催は全世界に新型コロナウイルスの感染が広がる最中であって、感染防止への対応が開催準備段階から大きな懸念事項となりました。はたして総合受付に予定していたドーム機材の設置が中国航路との関係で断念せざるを得なかったことに始まり、感染拡大が刻々と深刻化する中で、AC部様の記念講演会、同時開催のオープンキャンパス、ブライトン大学賞祝賀会等、数々の関連企画の自粛・縮小という苦渋の決断を迫られました。しかしながらこうした悪条件の中にあって、期間中の来場者数は昨年実績を上回る(10日換算)の2790名を数えました。これは、キャンパス開催3年目を迎え、学生及び関係者の熱い思いが「名芸の卒業・修了展をキャンパスへ見に行く」ということが定着しつつある現れとして、主催者側として大きな手応えを感じているところです。



ウイークエンドコンサート 展示(洋画2)

アートフェア(B棟1F)
展示(ビジュアルD)

展示(洋画1)
展示(テキスタイルD)

展示(メディアコミュニケーションD)
展示(メタル&ジュエリーD)

本年度もキャンパス全域で数々の作品が披露されましたが、年を追うごとに設営準備のノウハウが蓄積され、その分個々の作品制作や展示に対する注力の度合いが高まっている様子が随所に見られ、作品完成度の一層の高まりを強く実感できるものとなっていました。また本年度関連事業として新たに取り組んだ学生・卒業生の作品・グッズを販売する「アートフェア」も期間中上々の評判となり、今後本展へ足を運んで頂く動機となる期待が大いに高まりました。次年度開催に向けてまだいくつかの課題は残されていますが、主催者としてはまだまだ試みたいことが多々あり、これらを充実させながら出品者の誇りと来学者の感動をさらに高める卒業展・修了展を目指したいと思っています。

卒業運営委員会委員長 萩原 周

名古屋芸術大学大学院美術研究科 第24回修了制作展



A&Dセンター展示会場（下家杏樹 作品群）



D棟2F制作スペース展示会場（下家杏樹 作品群）

2月5日の大学院研究報告会（大学院1年生）に続いて、修了制作展を間近に控えた大学院2年生が2月12日に催された論文等審査試験に臨み、大学院で研究制作した成果を研究科担当教員や学生を前に発表しました。その折、各分野の大学院担当教員達が専門分野を超えて院生たちの創作に向かう姿勢や試験会場に展示された作品内容についての的確な講評やアドバイスをを行い、その言葉に学生たちは自身の未来を重ね感激したようです。

また、2月21日から3月1日までの10日間、「大学院研究科修了制作展」が学部卒業制作展と合同で学内施設を使用して催され、大学院2年生達は2年間の自己研鑽の成果である力作-日本画制作研究2年生2名（亀山絢香さん・丹羽優香さん）の大作各1点ずつと同時代表現研究2年生1名（下家杏樹さん）の大小作品6点-をアート&デザインセンター1Fギャラリーに展示した他、下家さんはD棟2Fの制作スペースにも10数点の大小作品を展示して、多くの来場者を迎えました。

「大学院研究科修了制作展」会期中の2月22日と23日には、美術領域特別客員教授の今村有策先生（東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻GAP教授）を招き、大学院研究科修了制作展出品作品について忌憚ない感想や意見をいただいたことが、出品者にとって卒業後の創作活動に大いに役立つことでしょう。

美術研究科長 大崎正裕



丹羽優香「伏在する情景」



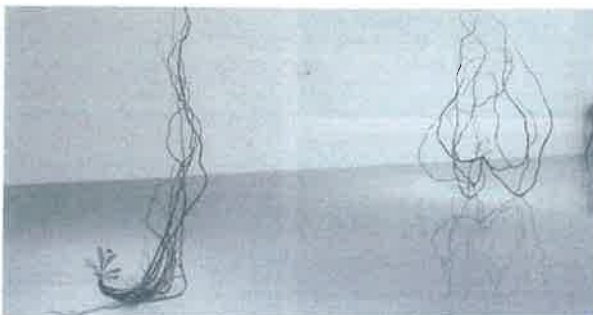
亀山絢香「yuragi」

名古屋芸術大学大学院デザイン研究科 修了制作展

昨年から学内で行われている卒業制作展と同時開催された大学院修了制作展にデザイン研究科生5名が出展した。クラブトデザイン研究の丹羽さんは、植物を精密に再現するなかで、人間の持つ内外面の精神性を深く掘り下げ表現した。ライフスタイルデザイン研究の横山さんは、琵琶湖に浮かぶ沖島を徹底的にフィールドワークリサーチし、地域の未来をどう提案できるかに意欲的に取り組んだ。ヴィジュアルデザイン研究のチョウ セイリュウさんは、二十四節気のグラフィックにより季節の細やかな変化に着目させるような作品制作を行った。同じくヴィジュアルデザイン研究のトウ ユサイさんは、日本の伝統的な文化である折形着目し、1つの型からいろいろな用途に使用できるパッケージを提案した。3Dデザインの馬さんは、出身地である中国の古い町に対し、既存の魅力ある建物をホテルにリノベーションするという形で、設計提案を行った。

名古屋芸術大学大学院での2年間、彼ら自身が研鑽した成果を、作品を通して自らのメッセージを社会に問うかたちで、この修了展で提示することができた展覧会であった。今後の活躍を期待している。

デザイン研究科長 駒井貞治



2019年度 名古屋芸術大学後援会 研修旅行報告



素晴らしい秋晴れに恵まれた10月5・6日、竹本学長はじめ32名で洲本・鳴門方面に研修旅行へ行ってきました。

1日目、北淡震災記念公園を見学しました。1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災の甚大な被害と災害の痕跡を残している貴重な施設で、当時の写真や活断層のパネルや国の天然記念物の「野島断層」などが展示保存され、大きくずれた断層や被害の大きさに衝撃を受けました。2020年は阪神淡路大震災から25年。南海トラフ地震発生が30年以内に70～80%と言われる中、起こりうる地震災害に対する認識と備えの必要性を改めて実感しました。

次に伊弉諾神宮を訪れ、日本の始まりやルーツに思いを巡らせ参拝しました。また2本の楠が1本となった「夫婦大楠」に末永く夫婦円満を願ったり、発毛で有名な会社が建立した「頭髮感謝碑」に触れ、毛髪への感謝といつまでも若々しく健やかでいられるよう思いを込めたりしました。

泊まりの洲本温泉からの眺望が素晴らしく、ホテル周辺を散歩する人もいました。また色とりどりの美味しい料理に舌鼓しながら、先生方や役員の方と沢山お話が出来、とても楽しい時間を過ごしました。

2日目は大塚国際美術館へ。陶板で再現した名画が1000点以上展示、中でも「システーナ礼拝堂」は圧巻でした。またゴッホの「ヒマワリ」7点が並べられた部屋があり、戦禍で焼失した「幻のヒマワリ」も再現されていました。館内は撮影自由で、インスタ映えする写真や絵画に入ったつもりのナリギリ写真を撮影する人が大勢いました。滞在時間2時間ではとても回り切れなかった事だけは残念でした。

昨年に引き続き1泊旅行で大いに親睦が深められ、後援会の絆も更に深まったと思います。皆様のご協力により、有意義な時間を過ごせました。心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

副会長(事業委員長) 小嶋史子



名古屋芸術大学・大学院後援会会則

第1条 本会は名古屋芸術大学・大学院後援会(以下「本会」という)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。

第2条 本会は名古屋芸術大学・大学院の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
- (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
- (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。

第4条 本会は名古屋芸術大学・大学院学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。

第5条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名

第6条 本会の役員選出は次の方法による。

- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
- (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
- (3) 役員の内任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。

第7条 本会役員の内任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
- (2) 監事は会務を監査する。
- (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。

第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。

第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。

第10条 総会は次の事項を審議・決定する。

- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
- (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
- (3) 役員の内選出、その他の役員が必要と認めた事項。

第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。

第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の内過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。

第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会をおく。

- (1) 総務委員会
- (2) 事業委員会
- (3) 広報委員会

第14条 委員会に、委員長1名、副委員長2名および委員若干名をおく。

- 2 委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は委員会の同意を得て会長が指名する。

第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。

第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。大学院生は年額10,000円とする。

第17条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。

第18条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。

- 附則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
 - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
 - 4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。
 - 5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。

名古屋芸術大学・大学院後援会 弔意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
2. 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
3. 役員の内2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、平成18年6月1日より施行する。

名古屋芸術大学・大学院後援会 顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学・大学院の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の内任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

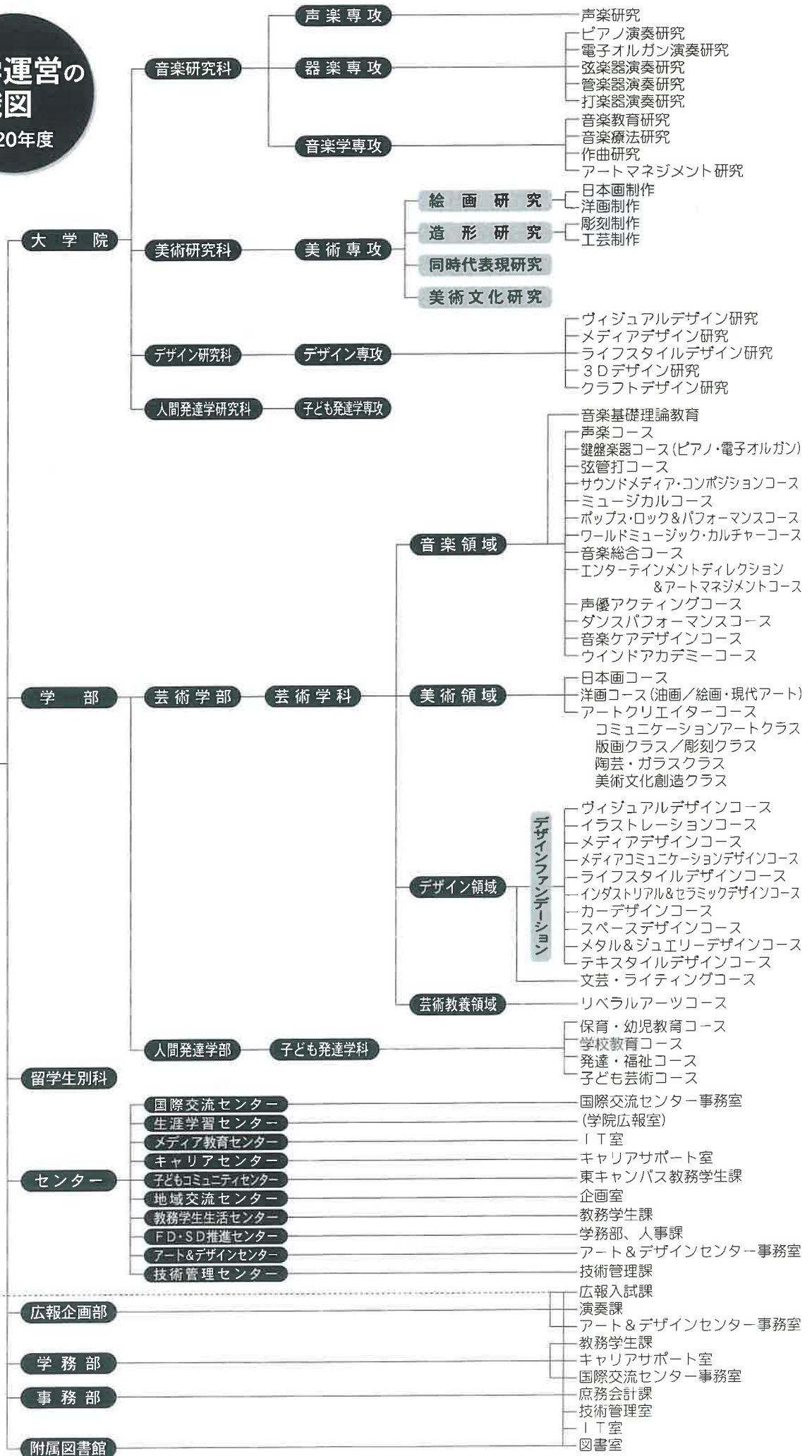
附則 この内規は平成17年4月1日から適用する。

大学運営の組織図

2020年度

大学

学務広報室



「せせらぎ合唱団」団員募集

この「せせらぎ合唱団」は、名古屋芸術大学後援会の有志により「歌を歌って楽しもう」と20年前から活動している合唱サークルです。美術部の絵画サークル「壁の華」より数年遅れて始まりました。今では、両方の会員になって活動している方もあります。今年入学された父兄の皆様には5月の定期総会の時に、すでに案内させて戴きました。まだこの会をご存知ない方々にも、ぜひとも知っていただきたく、この会員の募集をします。

「せせらぎ」とは、小川の流れや音です。合唱は一人の声は小さく弱いのですが、仲間の声を聞き合わせると素晴らしいハーモニーが出来ます。ひとりで、うまく歌えなくても、心が楽しく、気持ちが浮き立ってきます。この4月からは、みなさまもよく知っている曲「見上げてごらん夜の星を」(歌・坂本九)を江端先生の編曲で15名位の団員で歌っています。発声練習を兼ねて中学校の音楽の時間歌ったことのある「夏の思い出」や「夏は来ぬ」を二部合唱で歌っています。

月1回の練習でまだまだ十分音程がとれない段階ですが、仲間の声に助けられて皆で頑張っています。今年の名芸祭に向けて合唱の発表会に参加できたらと企画しています。

後援会の皆様に、この機会に入部していただけたらと思っています。是非とも練習会場に来て下さるようお待ちしております。

【練習日】

毎月第3土曜日の午後1時から2時30分まで
(都合により変更あり)

【場 所】

東キャンパス4号館の3階のオペラ教室
(グランドピアノで練習)

【指導者】

本校の卒業生である山田正文先生と江端智哉先生に発声の仕方から各パートの音取りを懇切丁寧に教えてもらっています。声を出すことで、健康と楽しさを実感できるこのサークルへ、是非とも加わってください。お待ちしております。

〈問い合わせ先〉

会 長 長江 政則
〒480-1214 瀬戸市上品野927番地
電話：0561-41-1655 携帯：080-3621-7706
副 会 長 千石 智子
〒488-0863 尾張旭市城前町上大道4084-6
電話：0561-53-4222 携帯：090-8469-4324



絵画グループ 壁の華 会員募集

この「壁の華」は、名古屋芸術大学後援会の有志によって活動を続けている絵画グループであります。毎月一回大学の施設をお借りして大学の先生方より丁寧な指導をして頂いております。油彩、水彩、パステル画を中心に、今年からは日本画についても教えて頂けます。そして、制作された作品を名古屋市民ギャラリーに展示して、皆様に鑑賞して頂いております。今年で第24回の展覧会を、開催し続けております。

この他にスケッチ会、鑑賞会等があります。

最近、若い会員の方に入会していただき、益々賑やかなグループとなりました。

是非、後援会の皆様も「壁の華」の会に入会して頂きませう様お勧め致します。

【活動状況】

- 1、月例会(月額会費:1,000円)
日時:毎月第三日曜日午後2時~4時
場所:名芸大西キャンパス
- 2、グループ展(24回継続中)
日時:毎年5月上旬(一週間展示)
場所:名古屋市民ギャラリー 7F
- 3、スケッチ会 11月予定
- 4、日展、二科展、国画展の鑑賞会

〈問い合わせ先〉

会 長 宇佐見 誠也
〒489-0874 瀬戸市幡野町508
電話:0561-21-4567 携帯:090-7305-8205
運営委員長 森部 みや子
〒492-8075 稲沢市下津町西下町58
電話:0587-32-2814 携帯:090-1825-1671



編集後記

あっという間の1年でした。

学生の皆さんも就活や進級に向けて多忙な日々だったことでしょうか。私は、芸術を専攻される皆さんの未来が楽しみで仕方ありません。それに加えて、当大学はボーダレスで文理融合、グローバル、社会的にも活躍できるスキルを備えた人材育成に力がそそがれています。多方面からの視点で学び社会で生かすための力もつけどのように活躍されているか、卒業生の方たちは時には母校に戻り報告や意見交換などする機会がもっと増えたら良いと思います。人のつながりは横も縦もありますが、時代でもつながっています。芸術はそんな深いつながりでより磨かれ素晴らしい発展を遂げると信じます。

本大学は創立50周年を迎えます。今後も大きく飛躍することを願い筆を置きたいと思っております。

副会長(広報委員長) 池野美鈴

◆発行 名古屋芸術大学・大学院後援会
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
TEL. 0568-24-0315 FAX. 0568-24-0317

◆編集 名古屋芸術大学・大学院後援会
広報委員会

◆表紙デザイン 名古屋芸術大学・大学院後援会
本学デザイン学科卒業生 武藤理恵子

◆発行日 2020年(令和2年)3月31日

